

屋島踊

義經殿のやしまのいくさを見てやればひよごり起の陣所には御馬の先に付のふは白旗なんぞはやら見事平家の方を見てやれば數萬の船が沖に出て敦盛公が先に立ち赤旗なんぞはやら見事さて亦平家の方よりは玉をり姫と申するは日の丸扇子を持出て源氏の方をまねきする那須の與市はそれを見て弓に矢をかけ射落せばのちのよまでもほめにけり

一、寶物

一、棟札 壹枚 元上栢植寺山天神社ノモノ

宮移神主

大工橋 貞之

表

上棟當社造營文龜元辛酉年十一月三日

兵衛 尉

並に小工十人

裏

願人

北村殿 濱地殿

同村人 三十人

一、額

一面 銅製 元祿十四年氏子奉納

一、太刀

二振 宗次作長壹尺五寸 景國作長貳尺八寸

一、金幣

二本

一、神鏡

一面 禁裏御用所青天正丸盛重作 徑壹尺五寸

一、基本財産

大正三年三月末現在

一、金貳千九百拾壹圓六拾壹錢九厘 銀行預金

一、山林 四反貳十八步

一、畑 十七步

村社 日置神社

阿山郡西和植村大字下和植字道立二千二百六十番地鎮座

五三二

一、祭神

- 大日靈貴命
- 健御名方命
- 健速須佐之男命
- 大山祇命
- 應神天皇
- 木花佐久夜比賣命
- 奥津比古神
- 奥津比賣神
- 市杵島比賣命
- 大物主神
- 火産靈神



西和植村 村社日置神社

一、由緒

當社ハ往古ヨリノ鎮座ニシテ明治四十年十一月六日許可ヲ受ケ大字下
柘植無格社八幡社岡山神社同淺間神社同八幡社同境内社津島神社山神
社無格社津島神社同境内社山神社無格社荒神社同淺間神社同津島神社
同境内社山神社ヲ同年十二月八日合祀シ次テ同四十一年六月十日許可
ヲ受ケ大字愛田村社日置神社ヲ同年八月五日合祀セリ而シテ大字下柘
植字シコボウ無格社八幡社境内社山神社ハ明治三十六年九月廿日大字
下柘植字市川原ヨリ境内へ移轉セリ
大字下柘植字西堀無格社津島神社境内社山神社ハ明治三十七年九月廿
日大字下柘植字濱井場無格社山神社二社並ニ字廣芝無格社山神社ヲ移
轉合祀セリ
大字下柘植字畑山無格社津島神社境内社山神社ハ明治三十七年九月廿
日字道立無格社山神社字畑山無格社山神社ヲ移轉合祀セリ
大字愛田村社日置神社ハ明治四十年四月八日許可ヲ受ケ大字愛田無格

社愛宕社同事比羅神社同市杵島比賣神社同淺間神社同山神社同山神社

同山神社ヲ翌年八月五日合祀セリ
當社ハ明治四十年七月村社ニ定メラレ明治三十九年十二月三重縣告示
第三百八十號ヲ以テ神饌幣帛科供進指定社ニ定メラル

一、大日靈貴命、健御名方命、合祀ニヨリ尙各一座ヲ合靈セリ其ハ大字愛田
字宮前千七百七十八番地元村社日置神社三座ノ内ノ二柱ナリキ、由緒
ハ「明細帳」ニ「本社ハ垂仁天皇の御宇大日靈貴命を當國神戸より敢津美惠
の宮へ遷し奉りし時暫く當村に鎮り給ふ故に當社へ勸請すと云ふ爾來
多くの年所を経て源賴朝平家に捕はれし時有故平宗清賴朝の爲め當社
の神に祈りしことあり此時數刻を経ると雖ども太陽依然たるを以て宗
清氏を日置と改む賴朝一統の世となりし時當社營繕費として若干の資
を日置氏に給はり同氏より營繕せるを以て社號とすと云ふ天正以降日
置氏衰へ永く營繕を催さざること數十年なりしが延寶五丁巳の年三月
郷士農夫の輩再造營すと云ふ最も往昔は諸民尊崇の社にして和論語に
日置明神伊賀の國にあるとあるは即ち是なりトアリ

一、須佐之男命、四座ヲ合靈セリ、一座ハ大字愛田字宮ノ前千七百七十八
番元日置神社三座ノ内一柱ニシテ由緒ハ前記二柱ニ同シ、一座ハ大字
下柘植字しこう防十三番地無格社八幡神社境内社津島神社一座ハ字畑
山千九百四十六番地無格社津島神社一座ハ字西堀四千七百六十一番地
鎮座無格社津島神社ノ鎮座ナリキ、由緒ハ何レモ「明細帳」ニ「不詳」トアリ
一、大山祇命十座ヲ合靈セリ、一座ハ大字下柘植字市河原三百十八番地無
格社山神社、一座ハ大字下柘植字畑山千九百四十三番地無格社山神社
一座ハ大字下柘植字道立二千二百二十五番地無格社山神社、一座ハ
大字下柘植字濱井場四千二百五十五番地無格社山神社、一座ハ大字同
所ノ字同所四千五百五十二番地無格社山神社、一座ハ大字同所字廣芝四千
六十六番地無格社山神社、一座ハ大字下柘植字針塚二千四十四番地無
格社山神社、一座ハ大字愛田字金剛石千七百二十八番地無格社山神社、一
座ハ大字同所字同所千七百七十番地無格社山神社、一座ハ大字同所字
宮ノ前千七百九十三番地無格社山神社ノ鎮座ナリキ、由緒ハ何レモ「明
細帳」ニ「不詳」トアリ

- 一、應神天皇 二座ヲ合靈セリ 一座ハ大字下柘植字小阪七百八十九番地無格社八幡神社 二座ハ大字同所字しこう防十三番地無格社八幡神社ノ鎮座ナリキ 由緒ハ何レモ「明細帳」ニ「不詳」トアリ
- 一、木花佐久夜比賣命 三座ヲ合靈セリ 一座ハ大字下柘植字針塚二千二十壹番地ノ一無格社淺間神社 一座ハ大字同所字廣畑千五百五番地無格社淺間神社 一座ハ大字愛田字小柳千二百三十八番地無格社淺間神社ノ祭神ナリキ 由緒ハ何レモ「明細帳」ニ「不詳」トアリ
- 一、奥津比古神奥津比賣神 大字下柘植字畑山千九百四十五番地無格社荒神社ノ鎮座ナリキ 由緒ハ「明細帳」ニ「不詳」トアリ
- 一、市杵島比賣命 大字愛田字堂谷九百一十一番地市杵島比賣神社ノ鎮座ナリキ 由緒ハ「明細帳」ニ「不詳」トアリ
- 一、大物主神 大字愛田字構谷二千九百六番無格社事比羅神社ノ祭神ナリキ 由緒ハ「明細帳」ニ「不詳」トアリ
- 一、火産靈神 大字愛田字南浦五百七十六番地無格社愛宕社ノ鎮座ナリキ 「明細帳」ニ「由緒不詳」トアリ

一、考 證

一、元、下柘植日置神社

按ニ「伊水温故」下柘植村ノ條ニ「三所大明神社」ト記シ「三國地誌」ニ「柘植三所明神」下柘植村按慶長年中愛田ヨリ勸請スト云ヘルハ本社ナルベシ但口碑ニハ平宗清ガ長男日置太郎家清父ノ後ヲ嗣テ下柘植ニ住ス之ヲ創建シ子孫世々奉祀シ來リシガ天正九年織田氏ノ兵燹ニ罹リ爾後其ノ子孫及全郷住民協力シテ之ヲ再建スト云ヘリ

一、元、愛田日置神社

「伊水温故」

「諏訪大明神」

七郷之内愛田村

信濃國諏訪郡健御名方命勸請

本宮一社神前に十八の石壇有其次に四十二の石壇有花表二有宮坊ハ常明山蓮生寺 上野薬師寺ノ下

「三國地誌」

和論語曰日置大明神神託伊賀國なへての衆生みさはを直くせよ神といひ人といひ道とをからぬ道なりそのはたくしの欲をさるとさらさるどのへだてのみ

按神明天王諏訪ノ三座ヲ祀ル彌平兵衛宗清造建ス二ノ神石アリ一ヲ金剛石ト云社ノ前ニアリ一ヲ神度石ト云里中ニアリ

○口碑云フ宗清後年本邑ニ住ス將軍頼朝其ノ舊恩アルニ因リテ所領ヲ給セントスルモ宗清辭シテ請ケズ故ニ藤九郎盛長ヲ以テ三十三邑ヲ其ノ神社ニ寄セ以テ造營ヲ助ケシム當時山中村ヲ改メテ愛田村ト稱スト其ノ愛田ノ村名ニ就テ俗傳アリト雖信シ難シ又「三國地誌」所引ノ「倭論語」ハ承久中清原良業ノ所記ヲ基礎トシ屢増補シテ今書ヲ成セリト稱スルモ偽書ノ定評アル書ナレバ其ノ記事信ヲ置キ難シ故ニ取ラズ

一、備考

一、元、金剛石山神社

モト大字愛田字金剛石ナル山神社ハ「三國地誌」ニ「二ノ神石アリ一ヲ金剛石ト云社」ノ前ニアリト云ヘルモノカ

一、境内神社

八幡神社

一、祭神

大物主命

應神天皇

仁德天皇

健甕須佐之男命

宇迦之御魂命

一、由緒

八幡神社ハ元琴毘羅神社ト稱セシガ明治四十一年六月十日大字愛田村社日置神社境内社八幡社若宮八幡社津島神社稻荷神社稻荷神

社ヲ同年八月五日合祀ノ上八幡神社ト改稱セリ

一、大物主命 當村社日置神社境内社琴毘羅神社ノ鎮座ニシテ「明細帳」

ニ「創立年月日其他不詳」トアリ

一、應神天皇 大字愛田字宮ノ前千七百七十八番地日置神社境内社八幡社ノ鎮座ナリキ「明細帳」ニ「由緒不詳」トアリ

一、仁徳天皇 大字愛田字宮ノ前千七百七十八番地日置神社境内社若宮八幡社ノ鎮座ナリキ「明細帳」ニ「由緒不詳」トアリ

一、健速須佐之男命 大字愛田字宮ノ前千七百七十八番地日置神社境内社津島神社ノ鎮座ナリキ「明細帳」ニ「由緒不詳」トアリ

一、宇迦之御魂命 二座ヲ合靈セリ 大字愛田字宮ノ前千七百七十八番地日置神社境内社稻荷神社(二社)ノ鎮座ナリキ「明細帳」ニ「由緒不詳」トアリ

一、建築物

本社

- 本 殿 神樂殿 拜 殿 寶 庫 透 塀
- 參籠舎 三宇 手水舎 社務所 鳥 居 三基 石燈籠 四基
- 境内社 八幡神社
- 本 殿 拜 殿

一、境 内 千二百四十六坪 官有地

附記

當社ハ本村ノ東部靈山ノ山麓ニアリ人家ヲ距ルヨト三町餘ニシテ一ノ華表アリ峻坂ノ參道ヲ登レハ平坦ノ地ニ出ツ茲ニ第二ノ華表アリ往時ノ祭禮多クハ之ヨリ練出ス行ク事半町許ニシテ二十七級ノ石階アリテ廣場ニ達ス茲ニ第三ノ鳥居及手水舎社務所參籠舎石燈籠等整然トシテ配列セリ更ニ十九級ノ石階ヲ登レバ拜殿神樂殿寶庫アリ神樂殿ヨリ石階五級ヲ窮ムレハ正面ニ莊嚴ナル社殿アリ圍ラスニ瑞垣ヲ以テス向ヒテ右方ニ境内社八幡神社アリ本社ト並列ス土地高燥ニシテ古杉老檜森々トシテ樹立シ風致幽邃ヲ極ム西南ノ境域ハ岡陵起

伏シ遙ニ佐那具外山ノ一部及中瀬村ノ初午山等ヲ望ミ風光頗ル佳ナ

一、氏子

三百二十三戸

大正三年十二月現在

一、祭日

一元始祭 一月三日

當日前年度氏子企畫事業成績並ニ本年度計畫事業ノ奉告ヲ爲シ終
リテ成申詔書奉讀式ヲ行ヒ聖旨ノアル所ヲ布演ス

一祈年祭 二月十七日

一勸學祭 三月廿八日

學校生徒入退學ニ付奉告祭執行

一春季祭 四月一日

一例祭 四月十二日

一農休祭 六月廿五日

一夏季祭 七月廿四日

一神社台祀紀念祭 七月廿五日

一秋季祭 十月十六日

一新嘗祭 十一月

一軍人祭

軍人入營及退營ノ都度奉告祭執行

一、寶物

一棟札 壹枚 文政十一年

別當

神王寺他行ニ付

愛染院法印貽英

表

文政十一年 戊子年

一天安全四海平定風雨順時五穀能成

殷馭廬島奉再造殿

大守尊候高運不退萬民快樂氏子繁昌

十一月二十八日

神 明 詠 牛頭天皇

冥助威力增益攸

社司神主

中西若狹守藤原朝臣克孝



西柘植村 村社神明社



全 上

裏略

一、劔 壹振 長一尺五寸 傳來

一、刀 壹口 長二尺五寸 傳來

一、鏡 貳面 徑八寸、徑一尺圓形 傳來

一、基本財産 大正三年三月末日現在

一、金貳千八十圓七拾七錢四厘

一、山林 壹町五畝五步

村社 神明神社

阿山郡西和植村大字新堂字柿谷千九十二番ノ二、同千九十三番字中出三百七十八番鎮座

一、祭 神

大日靈貴命

大物主命

木花佐久夜比賣命

應神天皇

大山祇神

建速須佐之男神

火産靈神

受持命

菅原道真

建御名方神

八王子

布都御魂神
天水分神

一、由緒

當社ハ往古ヨリノ鎮座ニシテ神明神社ト稱シ明治四十一年一月七日許可ヲ受ケ大字新堂無格社八幡神社(二社)ヲ同年一月十七日合祀シ次テ同年六月十日許可ヲ受ケ大字新堂村社神明神社境内社山神社大字楯岡村社神明神社同境内社八幡神社、山神社、大字柏野村社藤位神社同境内社秋葉社神明社、山神社大字御代村社諏訪神社同境内社神明社琴比羅社ヲ同年八月十三日合祀セリ
大字新堂村社神明神社境内社山神社ハ明治三十七年八月十八日大字新堂字柿谷ヨリ神明神社境内へ移轉セリ
大字楯岡村社神明神社ハ明治二十五年三月大字楯岡無格社津島神社同境内社愛宕神社無格社菅原神社ヲ合祀セリ 而シテ神明神社境内社山神社ハ明治三十七年八月十八日楯岡無格社山神社(二社)ヲ境内ニ

移轉合祀セリ

大字御代村社諏訪神社ハ明治四十年四月八日許可ヲ受ケ大字御代無格社津島神社同八王子社同境内社石神社大字柏野字松谷無格社山神社ヲ合祀シ次テ同年四月八日壬生野村大字川東無格社天永神社ヲ合祀セリ

大字柏野村社藤位神社境内社山神社ハ明治三十七年十月廿四日大字柏野字松谷無格社山神社字宮前無格社山神社ヲ合祀セリ
當社ハ明治四年七月村社ニ列セラレ同四十一年六月本村大字柏野、楯岡、御代ノ三村社ヲ合祀セシ結果境内諸建物ニ狹隘ヲ告ゲ尙且ツ設備上缺クル處アリシヲ以テ同四十四年許可ノ上境内ヲ擴張シ新ニ社務所ヲ設ケ諸建物ヲ改築セリ 大正元年九月三重縣告示第五十八號ヲ以テ神饌幣帛料供進指定社ニ定メラル

一、大日靈貴命、大物主命、木花佐久夜比賣命 當神明神社ノ鎮座ニシテ由緒ハ「明細帳」ニ「不詳」トアリ 而シテ大日靈貴命ハ三座ヲ合靈セリ 一座ハ大字柏野字宮前村社藤位神社境内社神明社一座ハ大字楯岡字中

出四四四番地村社神明神社一座ハ大字御代字山ノ下村社諏訪神社境
内社神明社ノ鎮座ナリシガ由緒ハ何レモ「明細帳」ニ「不詳」トアリ 又大
物主命モ尙一座ヲ合靈セリ 其ノ一座ハ大字御代村社諏訪神社境内
社琴比羅社ノ鎮座ナリシガ由緒ハ「明細帳」ニ「不詳」トアリ

一、應神天皇 三座ヲ合靈セリ 一座ハ大字新堂字柿谷千百九十四番地
無格社八幡神社 一座ハ同所字西谷無格社八幡神社 一座ハ大字楯
岡字中出村社神明神社境内社八幡神社ノ鎮座ナリキ 由緒ハ何レモ
「明細帳」ニ「不詳」トアリ

一、大山祇神 七座ヲ合靈セリ 一座ハ大字新堂字柿谷千百九十番地山
神社 一座ハ大字柏野字宮前村社藤位神社境内社山神社 一座ハ同
所字松谷千二百九十二番地無格社山神社 一座ハ同所字宮前千四十
三番地無格社山神社 一座ハ大字楯岡字中出五百十五番地無格社山
神社 一座ハ同所字越前四百四十番地無格社山神社 一座ハ大字柏
野字松谷千三百八十三番地無格社山神社ノ鎮座ナリキ 由緒ハ何レ
モ「明細帳」ニ「不詳」トアリ

一、建速須佐之男神 四座ヲ合靈セリ 一座ハ大字柏野字宮前千八十八
番地村社藤位神社 一座ハ同境内社秋葉社祭神三柱ノ内ノ一柱 一
座ハ大字楯岡字西ノ山百五十四番地無格社津島神社 一座ハ大字御
代字三構八百十三番地無格社津島神社ノ鎮座ナリキ 由緒ハ何レモ
「明細帳」ニ「不詳」トアリ

一、受持命 大字柏野村社藤位神社境内社秋葉社祭神ノ内ナリシガ由緒
ハ「明細帳」ニ「不詳」トアリ

一、菅原道真 大字楯岡字中出五百七番地無格社菅原神社ノ鎮座ナリシ
ガ由緒ハ「明細帳」ニ「不詳」トアリ

一、火産靈神 二座ヲ合靈セリ 一座ハ本村大字柏岡字西ノ山百五十四
番地無格社津島神社境内社愛宕神社 一座ハ大字柏野村社藤位神社
境内社秋葉社祭神ノ内ナリキ 由緒ハ何レモ「明細帳」ニ「不詳」トアリ

一、建御名方神 大字御代字山ノ下百七十三番地村社諏訪神社ノ鎮座ナ
リキ 由緒ハ「明細帳」ニ「不詳」トアリ

一、八王子神 大字御代字山ノ下百三十七番地無格社八王子社ノ鎮座ナ

リキ 由緒ハ「明細帳」ニ不詳トアリ

一、布都御魂神 大字御代字山ノ下無格社八王子社境内社石神社ノ鎮座ナリキ 由緒ハ「明細帳」ニ不詳トアリ

一、天水分神 壬生野村大字川東字神田ガハヒカシ三百三十八番地無格社天永神社ノ鎮座ナリキ 由緒ハ「明細帳」ニ不詳トアリ

一、考 證

元 柏野 藤位神社

「伊水温故」○柏野村條

「有神牛頭天王河合高森より勸請」

「三國地誌」

「藤位牛頭天王祠」柏野村

「伊賀國誌草稿」

「藤位神社」

阿拜郡柏野村字宮之前ニ在リ境内五百二十二坪素盞鳴尊ヲ祀ル祭

日七月十四日十月十八日社傳ニ云フ宣化天皇三年戊午之ヲ創建ス初メ河合山ニ在リ尤モ大社タリ天正ノ兵亂幸ニシテ焚燒ノ災ヲ免ルト云寛文七年丁未今地ニ遷奉シ元文中之ヲ再建ス明治四年村社ニ列ス境内末社三字氏子九拾八戸

○社傳ニ依レハ當社ハモト村ノ西端ナル藤位山ニ鎮座セルヲ何ノ時代ニカ字宮ノ前ノ地ニ遷座アリ天正九年伊賀兵亂ノ際兵火ニ罹リテ殆ト全燒ニ歸セルモ社殿ノ圓柱一ヲ存セリト云ヒ其ノ柱ニ刀痕アリシヲ造營ノ際填木シテ使用セルモノ現存セリ○此ノ國誌草稿ノ記スル所ト大ニ相違ス其ノ創建年代ノ如キ伊賀國誌草稿所載以外史料ノ徵スベキモノ無キモ今ニ天文二年五月寄進ノ大般若經數卷ヲ存スルト柏野轉輪寺ノ緣起ニ

藤位山此山者牛頭天王舊所而山號也昔伊賀國不隨天下之時天王在此山巍々建大伽藍何時頃歟川合十一郷而天王於勸請郷々其時奉勸請新藤位山者也

ト記セルトニ依リテ推考スルニ天正天文以往ノ古祠タルコト顯

著ナリト云

因ニ社殿ハ合祀後當社内ニ移轉シ其儘寶庫ト爲セリ

備考

一、元新堂 神明神社

口碑ニ當社ハ現今鎮座ノ社地ヨリ距離一丁餘ノ西南ナル字中出ニ鎮座セルヲ天正年間伊賀國兵亂ノ際兵火ニ罹リテ全焼ニ歸セシヲ後再ヒ造營セシ時社地周圍里道ナル上境内狹隘ナルヲ以テ靈地トナスコトヲ懼レ現在ノ社地へ遷座シ奉リシモノニテ今ニ村民其舊社地ヲ古宮ト言ヒ傳ヘタリ

一、元楯岡 神明神社

氏子中ニ秘藏セル祭祀帳ニ天正九年伊賀國兵亂ノ際兵火ニ罹リテ全焼ニ歸ストアリ

一、元楯岡 津島神社

伊水温故○楯岡村條

牛頭天王宮蔵田社より勸請

村氏社

三國地誌

牛頭天王祠(中略)楯岡村

一、元楯岡 菅原神社

伊水温故○楯岡村條

天満宮

村中ニ有

三國地誌

天神祠

楯岡村

一、元御代 諏訪神社

伊水温故○御代村條

有神諏訪大明神一社

三國地誌

諏訪祠

口碑ニ依レハ當社往古ハ字三構ノ地ノ鎮座ナリシヲ元龜二年字山ノ下ニ遷座セシモノナリ

一、神田 天永神社

伊水溫故^{○御代}_{村條}

「手長大明神一社」

「三國地誌」

「諏訪祠天長明神^{並御代}村」

一、建築物

本殿	拜殿	瑞垣	寶庫 ^二 宇	神樂殿	鳥居 ^二 基
手水舎	社務所	參籠舎	石燈明 ^{十七} 基	社標	

一、境 内

八百二坪 第一種官有地

附記

當社ハ本村ノ略中央ニ位スル丘陵ニアリテ前面ハ曠々タル田圃帯ヲ敷キタル如キ關西鐵道線路ヲ隔テ、遙ニ御代ノ里ト相對ヒ西ハ西新堂ヨリ柏野山ニ連リ東ハ楯岡ノ地ニ接セリ 境内ハ古松老杉蒼鬱ト

シテ茂リ合ヒ誠ニ幽邃ナル神域ナリ尙近年植込ミタル桃櫻梅楓等春ノ朝秋ノ夕詣テ來ル人ノ心ヲ慰メ顔ニ咲出デ殊ニ平地ヨリ高キ事數十餘尺ナレハ四時ノ眺望亦佳ナリ

一、氏 子

三百四戸 大正二年十二月現在

一、祭 日

元始祭 一月三日

當日ハ村治ノ奉告祭ヲ爲シ又戊申詔書ノ奉讀式ヲ舉行ス

青年團員ヨリ收穫物ヲ供進スル例ナリ

祈年祭 二月

例 祭 三月二十五日

當日青年團ヨリ收穫物ヲ供進ス

合祀紀念祭 七月十九日

夏季祭 七月二十日

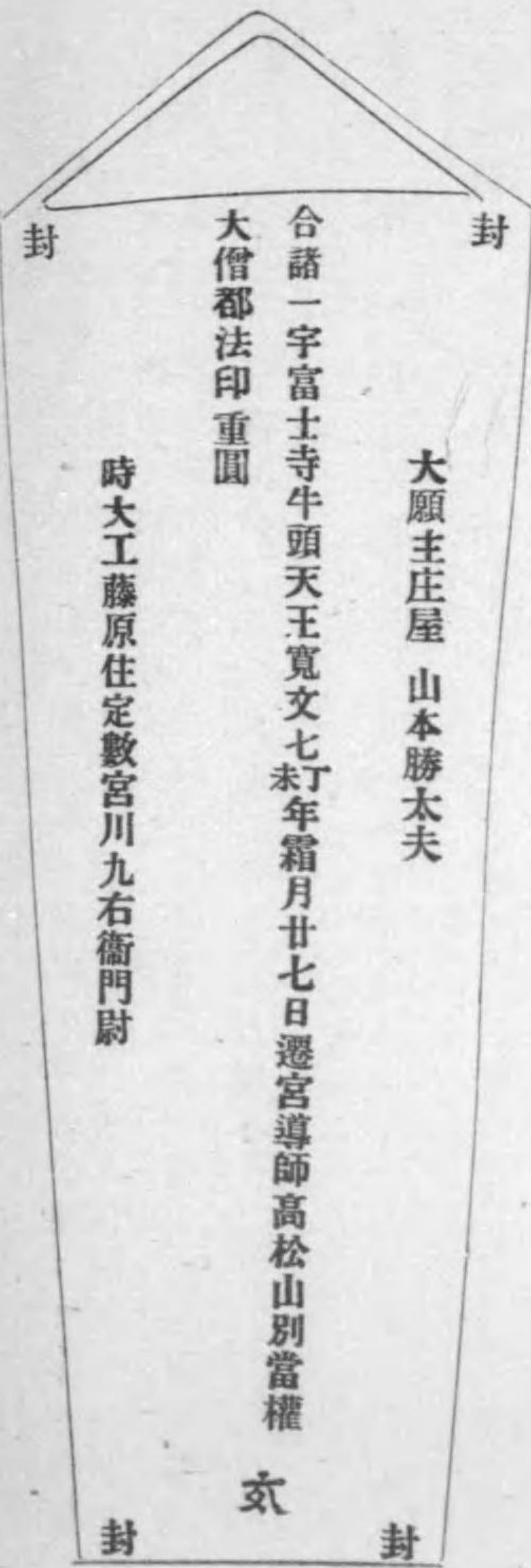
當日花傘ト稱シテ氏子ヨリ毎年三十本以上ノ造花ヲ奉獻スル例ナ

新嘗祭

十一月

一、寶物

- 刀 四振 一振長二尺五寸 駿州住兼貞作 一振長一尺作者不詳 一振長二尺五寸作者不詳 一振長二尺作者不詳
- 鏡 三面
- 額 一面
- 棟札 一枚



一、基本財産

大正三年三月日現在

- 一金貳千四百四十一圓四十九錢五厘 銀行預金
- 一山林 三町七畝九步
- 一田 一段三畝十五步

村社 鳥坂神社

五五八

阿山郡山田村大字甲野字石神壹千參百一番地鎮座

一、祭神

武内宿禰

大日靈貴命

愛靈命

彌都波能賣命

健甕須佐之男命

彌五郎

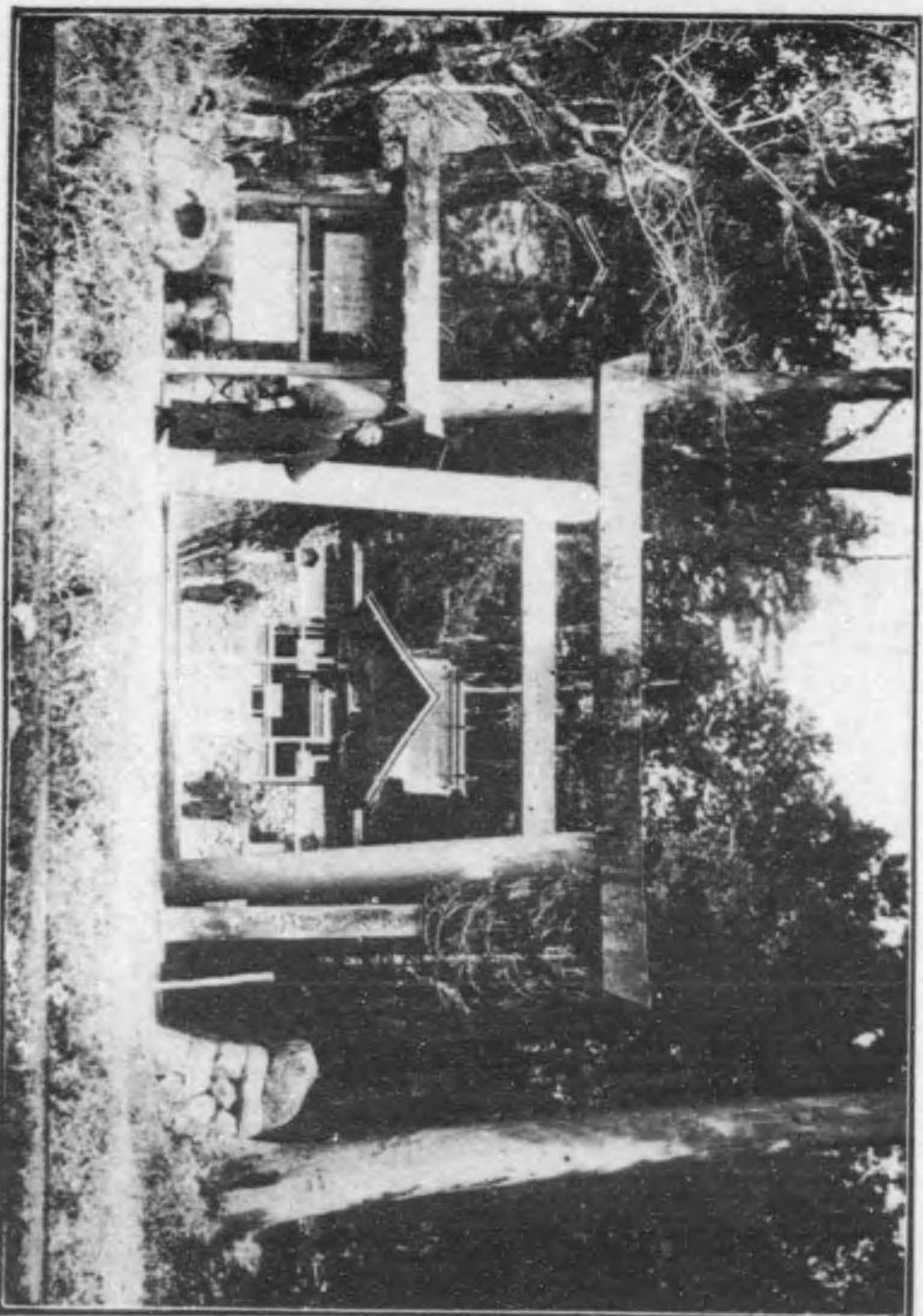
大山祇神

木花咲耶姬命

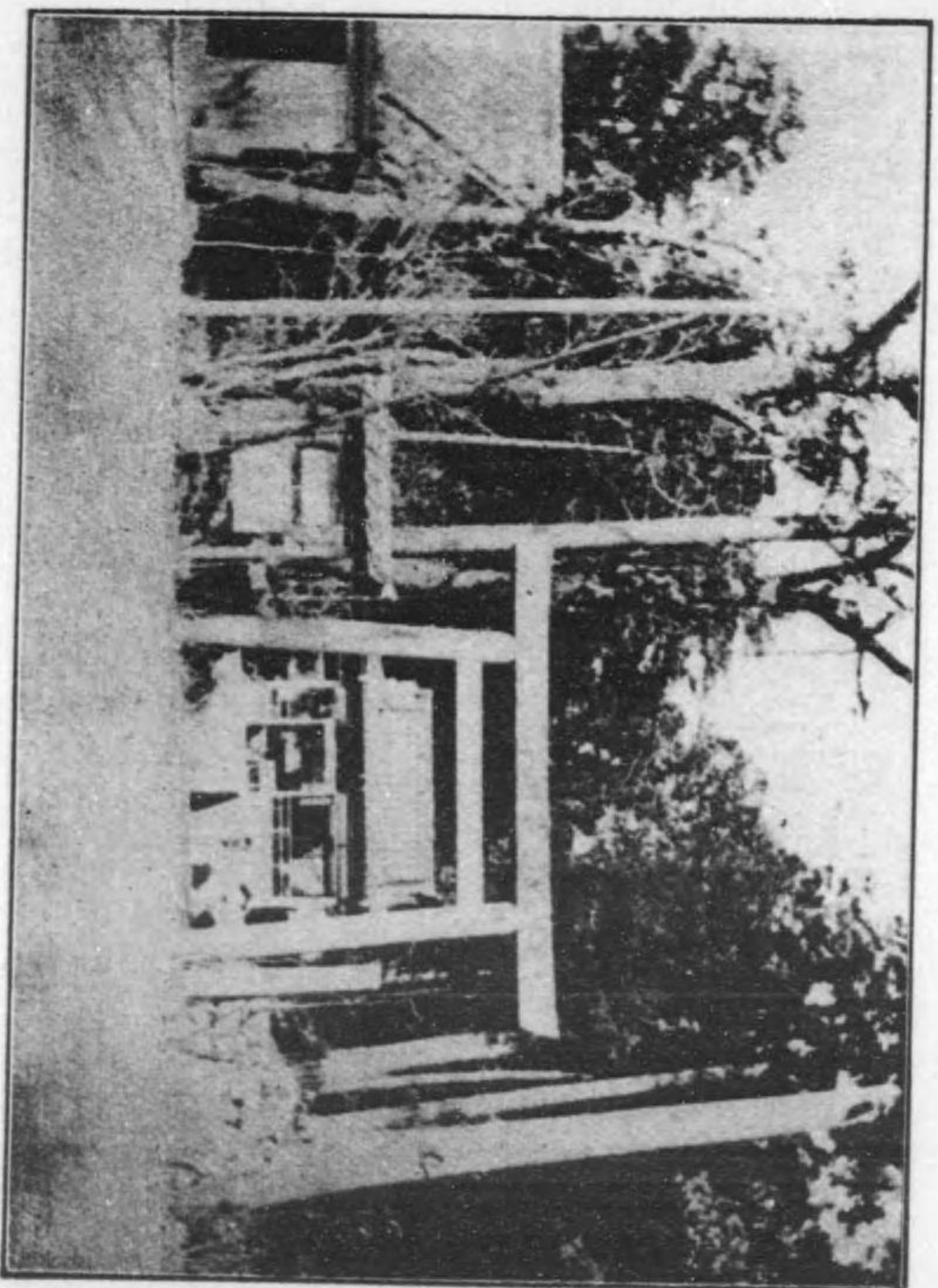
速玉之男命

大山咋神

二、由緒



山田村鳥坂神社



山田村社鳥坂神社

當社ハ往古ヨリ現社地ニ鎮座マシマセシガ明治四十年三月十六日許
可ヲ受ケ山田村大字甲野字石神一六二八番地無格社津島神社同境内
社彌五郎社字石神一三〇三番地無格社水神社字石神一六六九番地無
格社山神社字石神一六七三番地無格社山神社字石神一六二七番地無
格社山神社字石神一三七二番地無格社山神社字石神一三六八番地無
格社山神社字荒堀一二二八番地無格社山神社字山王三一〇一番地無
格社富士社ヲ同年七月十日合祀シ次ヲ同四十一年一月十三日許可ヲ
受ケ同村同大字字北浦二八七二番地村社若一神社ヲ同年四月十四日
合祀セリ

村社若一神社ハ許可ヲ受ケ明治四十年四月十六日境内社津島社ト共
ニ同大字瀬古一八八七番地無格社疾山神社同一九〇八番地無格社山
神社字笠山四〇〇番地無格社山神社字荒堀一一四三番地無格社山神
社同一一四二番地無格社山神社字アコ二五六一番地無格社山神社同
二五六〇番地無格社山神社字青木二四四一番地無格社山神社字角合
戸三二五五番地無格社山神社同三二〇八番地無格社山神社ヲ同年七

明治四年七月村社ニ列セラレ同三十九年十二月三重縣告示第三百八十號ヲ以テ神饌幣帛料供進指定社ニ定メラル

一、式内宿禰、大日靈貴命、愛鬘命、山田村大字甲野字石神壹千參百一番地、鎮座村社鳥坂神社ノ祭神ニシテ延喜式神明帳ニ所載ノ神社伊賀國貳拾五社ノ一座甲野村ニ鎮座延長風土記ニ曰ク、山田郡澤田山郡の東北にあり松多く名材を出し禽獸群集す、在神澤田明神と曰ふ奉崇の時代を知らず案スルニ鳥坂山ト相並ヒ其谷ニ水田アリ字澤田ト云其上方ノ山ヲ澤田山ト云大水ノ時ハ此溪澗ノ土中ヨリ今ニ良材朽木ヲ出ス鳥坂山舊社地ノ正東ニシテ本郡ノ北澤田ヲ限ルトアリ則是ナリ延長風土記ノ冠首ニ東は限爾保川西は限阿野村に南は限葭塚北は限澤田ナド有り寶曆十三癸未年伊賀司城藤堂元甫ノ著三國地誌式社考ニ曰ク、鳥坂神社甲野村にあり宮殿今亡社地鳥坂山の麓にあり今猶寶殿ケ谷鳥居川原等の地あり古昔の傳に神明若宮勝手の三座を祭り宮殿廢亡在何代不詳也云云寛政參年亥年伊賀國主大小ノ社寺並ニ式内ノ神

社其他有用ノモノ詳細ニ御調査ニ相成候記録ニ式内鳥坂神社祭神神明若宮勝手甲野村ト判然記載アリ亦其后伊賀國主御自筆ノ式内鳥坂神社ト掲額ヲ被献今ニアリ一説ニ鳥坂山ハ鳥居川原ノ上ニアルヲ以テ鳥坂鳥居ノ地名不二一稱ノ地ナリ然ルニ後世ニ至リ文字ノ似タルヲ以テ鳥坂ヲ鳥坂ト讀通ルモ彼是ノ書ニ見ユ全ク鳥ノ誤ナル乎社傳ニ曰ク本社式内ノ神社ニシテ即チ神明神社祭神大日靈貴命ハ産土神ナリト云又若宮神社ノ祭神式内宿禰大臣ハ村民祖神ナリト云然リト雖モ式内鳥坂神社ト奉稱ハ固ヨリ氏祖神ナル由正ニ先傳アリ今尊信歸仰スル所モ亦然リ而シテ勝手明神祭神愛鬘命ハ古昔近江國三津村源四郎ナル者ノ先祖當地へ來リ山川荒莽ノ地ヲ截斷開拓シテ大ニ人民ノ苦業ヲ助ケ以テ彼ノ鳥坂山ニ鎮座スル處ノ鳥坂神社ノ合殿ニ合祀シテ遂ニ神明若宮勝手ノ三座トナレリ故ニ鳥坂山ノ乾位ニ塚アリ之ヲ開基三津塚ト稱シ例年九月一日ヲ祭日ト爲シ村民ヨリ神饌ヲ供シ之ヲ一社三神合祭ト爲シ崇敬スルノ明徴ナリ而シテ后天正ノ兵火ニ罹リ社殿及悉ク燒亡ス故ニ氏子協議ノ上清潔ノ地ヲ撰テ社地沿革

シテ現在社地へ新ニ神殿ヲ造營シ如故式内鳥坂神社ト崇敬スル尙如此然ルヲ况ヤ天正兵亂后ニ於テヲヤ當社地ニ遷座以降數百年間造營修覆ノ度毎ニ納ムル處ノ棟標己ニ數十枚ニ及ベリ悉ク鳥坂神社ト記載アリ又鳥坂山澤田山寶殿ク谷鳥居川原ノ地名相聯絡シテ古來田畑山林ノ帳簿ニ明瞭タリ尙社地今ニ判然トシテ己ニ其土中ヨリ延喜式鳥坂神社ト顯銘有之手水石出ル之ヲ以テ之ヲ觀レバ式内鳥坂神社ハ甲野村ナル事明々亮々確乎トシテ敢テ疑ヲ容サル處ナリ然ルヲ況ヤ諸説地名トモ千緒萬端冤符暗合スレバ今更假構ニアラサル亦明ナリ於茲乎御一新以來宣教使自筆ニテ式内鳥坂神社ト書載ノ標杭ヲ建ラレタリ尙鳥坂山ニ鎮座スル鳥坂神社ナル神縁ヲ以テカ古今氏子ノ人民敢テ鷄卵ヲ喰ハズ

一、彌都波能賣命 大字甲野字石神無格社水神社ノ鎮座ナリキ 由緒ハ「明細帳」ニ「不詳」トアリ

一、健速須佐之男命 二座ヲ合靈セリ 一座ハ大字甲野字石神無格社津島神社 一座ハ字北浦村社若一神社境内社津島社ノ鎮座ナリキ 由

緒ハ何レモ「明細帳」ニ「不詳」トアリ

一、彌五郎 大字甲野字石神無格社津島神社境内社彌五郎社ノ鎮座ナリキ 由緒ハ「明細帳」ニ「不詳」トアリ

一、大山祇神 十五座ヲ合靈セリ 五座ハ大字甲野字石神無格社山神社(五社) 三座ハ字荒堀無格社山神社(三社) 一座ハ字瀬古無格社山神社

一座ハ字笠山無格社山神社 二座ハ字アコ無格社山神社(二社) 一座ハ字青木無格社山神社 二座ハ字角合戸無格社山神社(二社)ノ鎮座ナリキ 由緒ハ何レモ「明細帳」ニ「不詳」トアリ

一、大山咋神 大字甲野字瀬古無格社疾山神社ノ鎮座ナリキ 由緒ハ「明細帳」ニ「不詳」トアリ

一、木花咲邪姬命 大字甲野字山王無格社富士社ノ鎮座ナリキ 由緒ハ「明細帳」ニ「不詳」トアリ

一、速玉之男命 大字甲野字北浦村社若一神社ノ鎮座ナリキ 由緒ハ「明細帳」ニ「里俗傳聞ニ往古紀伊國熊野權現の分社と云故に村民鳥を獵せず」とアリ

一、考 證

「延喜式神名帳」上

「山田郡三座」並小

鳥坂神社

「伊賀國名所記」

「山田郡」

鳥坂明神

鳥坂の里にまします直指抄云下照姫也

信子内親王

いのりてもかひこそなけきひとりねの

いつもうさかの神かきのうち

此歌至寶抄に「いかの内に入り」

「神名帳考證」延喜

「山田郡三座」並小

鳥坂神社

今云鶴宮天神歟 大和國有同名今云志摩加原 鳥鳴海
神配山岬多良斯神岬與坂音通大和國高市郡鳥坂神社二座 波多賦

井神社

「三國地誌」

「鳥坂神社」神名帳一
本件鳥坂

永閑伊賀名所記曰 ○文
略

按甲野村ニ座ス土俗云神明若宮勝手明神三座ヲ祀ルト舊社ハ鳥坂

山ノ麓ニアリ其地ヲ寶殿谷鳥居河原ト云鳥鳥文ノ似タルヲ以後音

讀ヲ誤リタルカ

「神名帳考證」○伴
信友

「山田郡三座」並小

鳥坂神社

○大和國高市郡鳥坂神社二座伊名山田郡鳥坂明神ハウサカノ里ニ

座ス(越中國婦負郡鶴坂神社ト云モアリ(伊考)鳥坂神社在出後村岩

坂神社トアリ又或説ニ今山田郡ニ鳥坂村アリテトビサカ村ト唱フ

トアリ○或説ニ鳥坂神社伊賀阿拜郡鳥坂村ニアリ昭子内親王ノ歌

ニ「祈りてもかひこそなけれ獨子をいつもうさかの神垣の内」トヨミ

玉ヒタレバ鳥坂ハ誤也ト云リ○帳ノ中ニ鳥ヲウ假字ニ用タル例ナシ

「神社叢録」上

鳥坂神社 ○頭註云印本鳥坂に作る今村名に據て改む

鳥坂は字左加と訓べし印本トサカとあるは鳥の字に訛りて後の假字なるべし○祭神下照姫源○鳥坂村ウツガに在す同上○名所例祭(缺)○今阿拜郡に屬す

「大日本史神祇志」

山田郡三座

鳥坂神社 ○今在甲野村中有鳥坂山其麓有寶殿谷鳥居河原等名即其舊址云

「神祇志料」

○山田郡三座小並

鳥坂神社後村上天皇正平元年六月丁巳神祇官御體御トを奏して云社司神事を穢すを以て鳥坂神の崇あり仍て使を遣し社司に中祓を科す即此神也宮主秘事々傳

「伊賀國誌草稿」

「鳥坂神社」

山田郡甲野村字石神ニ在リ境内三百十七坪大日靈貴尊ヲ祀リ武内宿禰及ヒ愛鬘命ヲ相殿トス祭日十月十五日創建年月詳ナラス松柏檜杉ノ類社殿ヲ遠リ甲野川其前ヲ流レ櫻花楓葉ノ候俱ニ幽趣ヲ極ム社傳ニ云フ往古本村ノ東鳥坂山麓ニ在リ天正九年辛巳兵燹ニ罹ルヲ後此地ニ遷幸スト今尙舊址ヲ名ケテ寶殿カ谷鳥居跡ト云甲野ノ水源此處ヨリ發ス故ニ亦鳥居河原ノ名アリ明治五年壬申一月村社ニ列ス氏子四十六戸

按スルニ鳥坂神社伊賀式社考及ヒ三國地誌等ノ書概ネ甲野村ニ在ルモノヲ以テ式内神社トナシ諸説其實ヲ詳ニスル能ハズ然レドモ今官已ニ出後村ニアルモノヲ以テ定メラル依テ暫ク參觀ニ具フ

○按ニ鳥坂神社一ニ鳥坂神社ニ作ルト云フ依リテ「伊賀名所記」ニ鳥坂ノ里ニ座ストナシ「神社叢録」等之ニ從ヘリ又出口延經ノ「神名帳考證」ニハ今鳥ヶ原村ナル鷗宮神社ヲ以テ之ニ擬セリ

○同神社 然レドモ式ニ鳥ヲ以テウノ假字ニ用ヒタルノ例ナケレバ其ノ説果シテ當ヲ得タリヤ否疑ハシ且伊賀國內ニ鳥坂里ナル所無シ又いのりても云々ノ歌伊賀名所記及伴氏神名帳考證ニ見ユレド○此ノ歌ノ作者名所記ニ傳子内親王トシテ考證ニ昭子ニ作ル其ノ出所詳ナラサルノミナラズ所詠ノうさかの神○此ノ神ノ名所記ニ傳子内親王トシテ考證ニ昭子ニ作ル伊賀ノ夫レヲ指セルヤ否明ナラズ至寶抄ニ伊賀ノ内ニ入レタリト云ヘルモ頗ル覺束ナシ要スルニ鳥坂誤リテ鳥坂トナレリト云フハ信シ難シ而モ其ノ鳥坂ノ社名何ニ因レルカハ史料ノ據トスベキモノヲ見ズ唯其ノ舊山田郡内ニ存スルコトハ論ヲ俟タズト雖社地或ハ本村大字出後ノ岩坂勝手明神トシ或ハ大字山田ノ植木神社相殿中ニ奉祀スト云ヒ諸説紛々トシテ決セズ○植木神社社名考證明治七年教部省令シテ出後ノ祠ヲ以テ式ノ鳥坂神社トナセリト雖未タ以テ千古ノ史疑ヲ解スルニ足ラズ今茲ニ甲野ノ祠ヲ以テ之ニ擬スルハ尙早ノ感アルモ萬治ノ棟札ニ既ニ式内鳥坂神社ヲ稱スルヲ見レバ其ノ社號ヲ冒セルハ此祠ヲ以テ最モ古シトスベキガ如シ

一元、若一神社境内社津島神社

「伊水温故」○甲野村條

「氏神若一王子 當郷ノ氏社」

「三國地誌」

「若一王子祠」甲野村

一元、北浦若一神社

「伊水温故」○甲野村條

「若王子權現 熊野の一王子施無畏大士と號す天照太神也あるひハ若一王子と號す 村の氏社」

「三國地誌」

「若一王子祠」甲野村

一、建築物

本殿 拜殿 瑞垣 鳥居
 中門 社號標

一、境 内 四百十三坪

官有地

五七〇

附記

當社ハ山田村ノ東北端石神山ノ麓ニアリ參道ニ沿ヒテ鳥居川ノ枝流
潺々トシテ流レ境内ハ老樹繁茂シテ自然神域ヲ形成シ西南ハ開展シ
テ眺望佳ナリ

一、氏 子 百 戸 大正二年末現在

一、祭 日

一元始祭 一月三日

當日村民一同社頭ニ參集本村長前年ニ於ケル爲政ノ經過ヲ奉告シ將
來ノ希望ヲ神明ニ祈誓シ後戊申詔書奉讀式ヲ行ヒ聖旨ヲ布演ス

一、祈年祭 二月

一、勸學祭 三月廿五日

一、例 祭 四月十五日

一、新嘗祭 十一月

一、軍人祭 十一月廿五日

一、寶 物

一、棟札 壹枚

一、社號額面軸 壹幅

萬治元戌年 神明
 奉造營式内鳥坂神社若宮三座合殿遷宮御寶前
 十一月吉日 勝手
 氏 子 中

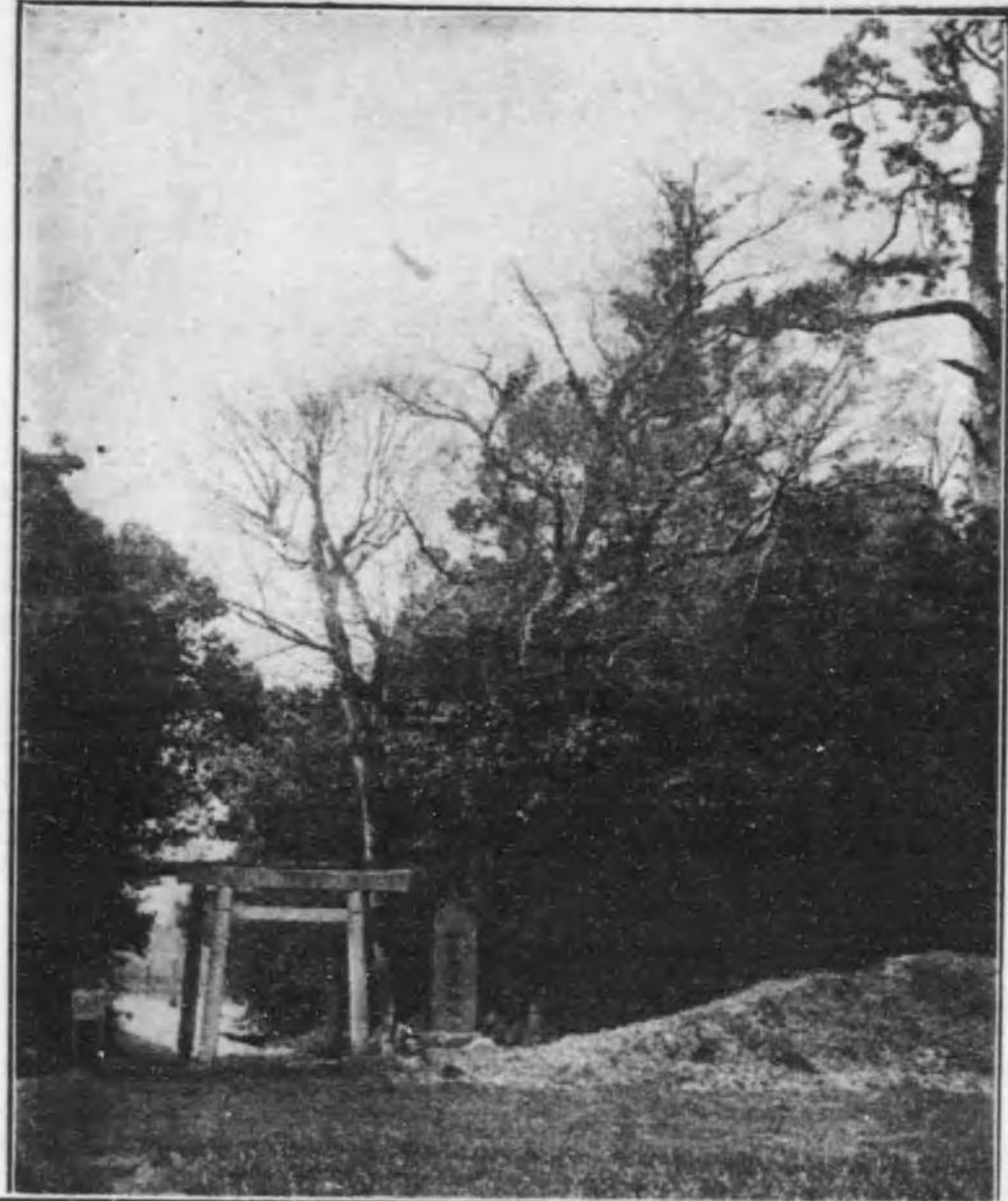
一、基本財産

大正三年三月末現在

一、金五百圓

農工銀行債券

五七一



社 神 手 勝 社 村 村 野 生 壬

- 一、金壹千圓 同上
- 一、金四百貳拾九圓七拾錢 現金
- 一、田 貳反八畝二十五步
- 一、畑 四畝九步
- 一、郡村宅地 十步
- 一、山林 二反十四步

村社 勝手神社

岡山郡壬生野村大字山畑字子守四百八十一番地鎮座

一、祭 神

正哉吾勝勝速日天忍穗耳命

大山津見命

木之花佐久夜比賣命

天兒屋根命

國狹槌命

國常立神

豊斟淳尊

健速須佐之男命

火能迦具土命

大物主命

宇迦能御魂命

一、由緒

當社ハ往古ヨリノ鎮座ニシテ明治四十年十月十二日許可ヲ受ケ大字山畑字野畑無格社山神社字子守無格社稻荷神社ヲ同年十月廿一日字春日無格社春日神社同境内社愛宕神社津島神社事毘羅神社稻荷神社山神社字切畑無格社日吉神社ヲ四十一年一月十四日ニ合祀シ奉レリ而シテ合祀前ニ於ケル無格社春日神社境内社山神社ハ明治三十七年四月廿六日大字山畑字西ヶ崎無格社山神社字太尾無格社山神社字春日無格社山神社字折尾無格社山神社字向田無格社山神社字向田無格社山神社字向田無格社山神社字同五月十四日大字山畑字坂東無格社山神社ヲ境内社ニ移轉合祀ノ上山神社ト單稱セリ

明治四年七月村社ニ列セラレ明治三十九年十二月三重縣告示第三百八十號ヲ以テ神饌幣帛料供進指定社トナレリ

一、正哉吾勝勝速日天忍穗耳命 大字山畑字子守四八一番地ノ鎮座ニシテ由緒ハ「明細帳」ニ不詳トアリ

一、大山津見命 七座ヲ合靈セリ 一座ハ大字山畑字西ヶ崎二百七十一番地無格社山神社 一座ハ大字向田四千三百三十二番地無格社山神社 一座ハ字折尾三千五百六十八番地無格社山神社 一座ハ字春日三千二百九十二番地無格社山神社 一座ハ字太尾千七百三十九番地無格社山神社 一座ハ字坂東二千九百四十一番地無格社山神社 一座ハ字野畑九百六十七番地無格社山神社ノ鎮座ナリキ 由緒ハ何レモ「明細帳」ニ不詳トアリ

一、木之花佐久夜比賣命 本村大字山畑字向田四千四百四十七番地無格社淺間神社ノ鎮座ナリキ 由緒ハ「明細帳」ニ不詳トアリ

一、天兒屋根命 本村大字山畑字春日三千三百五十八番地無格社春日神社ノ鎮座ナリキ 由緒ハ「明細帳」ニ不詳トアリ

一、國狹槌命、國常立神、豐斟淳尊 大字山畑字切畑三千五百八番地無格社日吉神社ノ鎮座ナリキ 由緒ハ「明細帳」ニ不詳トアリ

一、健速須佐之男命 大字山畑字春日三千三百五十八番地無格社春日神社境内社津島神社ノ鎮座ナリキ 由緒ハ「明細帳」ニ不詳トアリ

一、火能迦具土命 大字山畑字春日三千三百五十八番地無格社春日神社
 境内社愛宕神社ノ鎮座ナリキ 由緒ハ「明細帳」ニ「不詳」トアリ
 一、大物主命 大字山畑字春日三千三百五十八番地無格社春日神社境内
 社事毘羅神社ノ鎮座ナリキ 由緒ハ「明細帳」ニ「不詳」トアリ
 一、宇迦能御魂命 大字山畑字春日三千三百五十八番地無格社春日神社
 境内社稻荷神社 字子守三百八十番地無格社稻荷神社ノ鎮座ナリ
 キ由緒ハ「明細帳」ニ「不詳」トアリ

一、境 内

四百七十七坪

官有地

附記

當社ハ本村大字山畑ノ西陲ニ位シ地ハ一帯ノ平地ニシテ三方ハ田圃
 ヲ以テ廻ラシタル森林ヲ擁シ神殿ハ南面ノ鎮座ナリ 神域静寂ニシ
 テ四季ノ眺望亦佳ナリ

一、建築物

本殿 拜殿 中門 瑞垣 鳥居ニ基
 參籠舎 燈籠五基 社標

一、氏 子

百五十六戸

大正二年十二月現在

一、祭 日

祈年祭 二月
 例祭 十月一日
 新嘗祭 十一月

一、寶 物

棟札 壹枚
 鏡 壹面

正徳元年卯年八月二十五日
 徳山本明院寄進 作者不詳

干時天文二十三甲寅年

坊主汝藏主

阿波

右奉直德者天
地久御國滿社

般若讀示

紀彌四郎國長

奉上棟子守社但修理所也淨正防宗慶御蔽御頂載兩地頭愈代

印官移時

神主清一太郎

壬生野

大工兩大工造營之時從
兩頭實貴町人繁
地頭三貫目宛御
昌上下元爲如意
壬生野 出所有
紀小太郎時安 者也
滿足祈禱誠所如件

十二月二十四日亥尅 福宜兵衛太郎

紀小太郎時安

領内事限り南は山田預水荷を限

徳山从 文二郎太夫

湯屋若右衛門

り西は炭焼土横道を限り北は蛇

形部 中屋太夫

東 衛門

喰池永荷を限り東は山を一石一

年 預門若太夫

以上

斗家日別を惣申也

彦次郎太夫

一、基本財産

大正三年三月末日現在

一、金貳千五拾五圓九拾六錢

一、山林 七畝三步

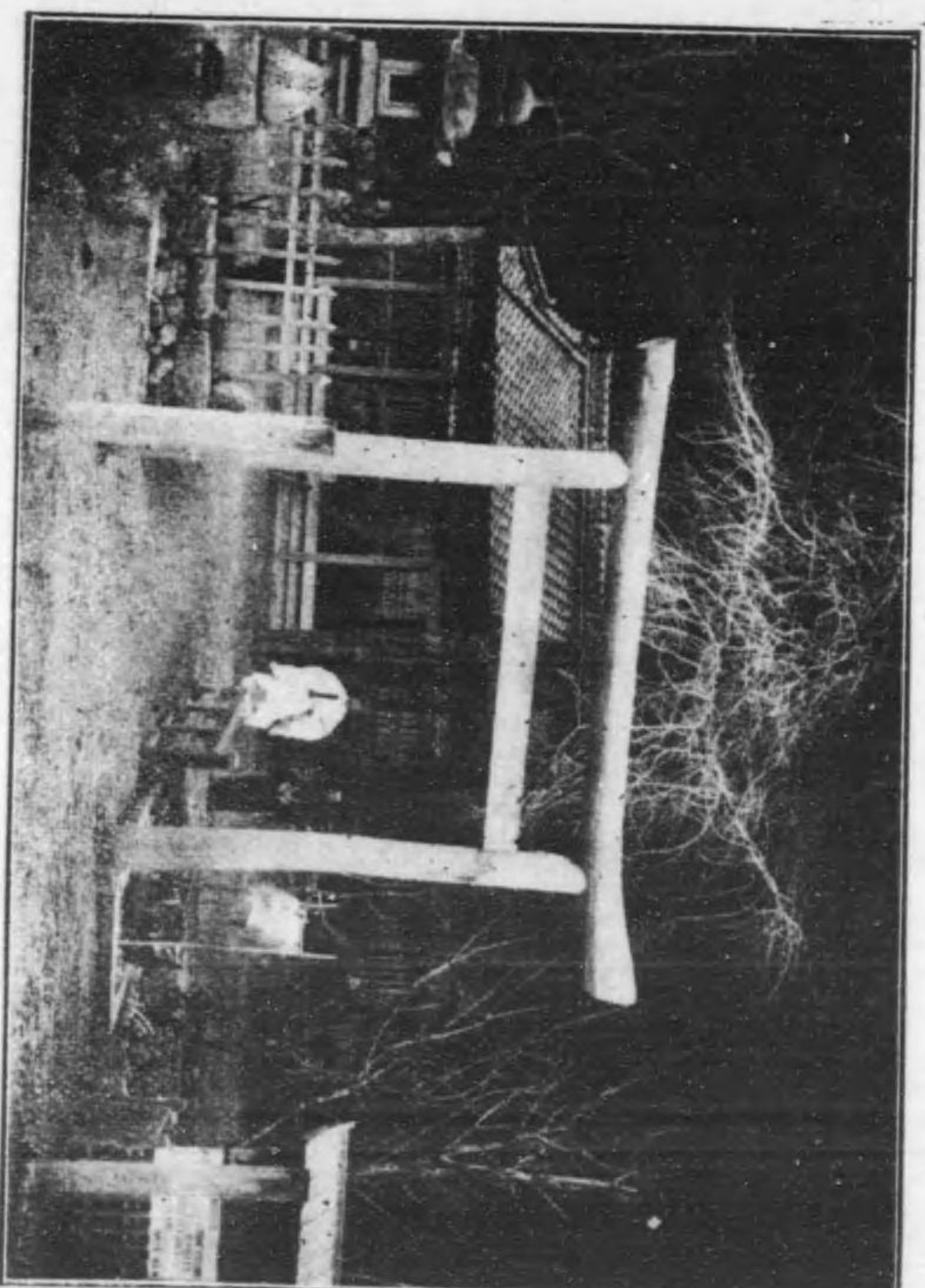
村社 酒解神社

岡山郡布引村大字坂下字中垣内五百十九番地鎮座

五八〇

一、祭神

木花咲夜比賣命
 健速須佐之男命
 天兒屋根命
 大山祇神
 市杵島毘賣命
 正哉吾勝々速日天忍穗耳命
 天之穗日命
 天津日子根命
 活津日子根命
 熊野久須毘命
 多紀理毘賣命



社神解酒社村引布

多紀郡毘賣命
 武甕槌神
 天押雲命
 大日靈貴命
 經津主神
 大物主命
 菅原道真
 大稻與命
 品陀和氣尊
 大熊尊
 火之加具土命
 天明玉命
 彌都波能賣神

一、由緒

當社ハ往古ヨリ鎮座マシク酒解神社ト稱ス明治四十年三月十四日許可ヲ受ケ境内社津島神社並ニ大字坂下字上河原無格社山神社(二社)字向無格社春日社ヲ同年三月二十六日合祀シ次テ同年十一月七日許可ヲ得テ大字中馬野字美屋村社八柱神社字稻葉無格社嚴島神社大字奥馬野字向村社嚴島神社字川原出無格社山神社ヲ同年二十四日合祀シ更ニ四十一年五月七日許可ヲ受ケ大字廣瀬字西谷村社彌榮神社ヲ同月十八日合祀セリ

村社彌榮神社ハ明治四十年二月十二日許可ヲ受ケ大字廣瀬字西谷無格社若宮八幡神社同字無格社春日神社字北浦無格社建部神社同境内社水神社菴竈神社字三谷無格社愛宕神社字上山無格社山神社字林仙無格社山神社字馬野川無格社山神社字三谷無格社山神社ヲ同年三月六日合祀シ更ニ同年十一月七日大字川北字權現村社杉山神社ヲ合祀セリ

村社杉山神社ハ四十年二月七日許可ヲ受ケ境内社津島神社大字川北字西山無格社金刀羅神社字山神無格社山神社ヲ同月二十八日合祀セリ

リ

當社ハ明治四年七月村社ニ列セラレ同四十一年十二月三重縣告示第五百四十九號ヲ以テ神饌幣帛料供進指定社ニ定メラル

一、木花咲夜比賣命 大字坂下字中垣内五百十九番地鎮座ニシテ由緒ハ「明細帳」ニ馬野全司福持九郎住城記に曰く伊州山田郡馬野庄酒解村者往昔大友皇子勢州御幸之時此に御休殿を構へ皇子御氣色不美供奉諸卿握拳其頃當村馬野全司福持と云ふ者一人乙女撰奉御造酒皇子御威不斜此乙女召侍女或曰御氣色伺娘皇子奏白様我里氏神賜官任位被下此身譽父全司守名聞也難有侍畏入言上皇子御氣色美被任正一位酒解大明神と云々トアリ

一、健速須佐之男命 三座ヲ合靈セリ 一座ハ大字坂下字中垣内五百十九番地村社酒解神社境内社津島神社ノ鎮座ナリシガ由緒ハ「明細帳」ニ「不詳」トアリ 一座ハ大字川北字權現九百四十番地村社杉山神社境内社津島神社ノ鎮座ナリキ 由緒ハ「明細帳」ニ「京保十八癸丑年四月より八九月頃迄疫病流行して人多く死す故に當國領主藤堂高次殿より觸

達して爾來津島天王勸請無之村は直に勸請可致御趣意に付六月三日尾州津島より勸請すと云「トアリ 一座ハ大字廣瀬字西谷千二百六十八番地村社彌榮神社ノ鎮座ナリシガ由緒ハ「明細帳」ニ「古老傳聞に曰く舊午頭天王にして永承三子年六月十四日當村の領主濱田兵庫之助勝信字清水谷へ勸請し奉りて一村の産土神とす然るに天正兵亂に殿舎悉く焼亡し故に假殿を設け神璽を奉納其後慶長十八丑年當社地へ移し天満宮と一棟二扉に勸請して故の如く一村の産土神と崇敬し奉りしに明治二年御一新に付午頭天王號を廢し彌榮神社と改稱し奉るなり「トアリ

一、天兒屋根命 三座ヲ合靈セリ 一座ハ大字坂下字向百廿五番地無格社春日社ノ鎮座ナリシガ由緒は「明細帳」ニ「不詳」トアリ 一座ハ大字川北字權現九百四十番地村社杉山神社祭神五柱ノ一柱ニシテ由緒ハ後ニ錄ス 一座ハ大字廣瀬字西谷千二百六十九番地無格社春日神社ニ柱ノ一柱ニシテ由緒ハ「明細帳」ニ「古老傳聞に曰く當社ハ往昔杉坂丹波守大和國添上郡春日神社を勸請して氏神と崇敬し奉りしに天正兵亂

に滅亡して後元和三巳年廣出小場の者鎮守として當社地へ再ひ勸請して例年三月十五日祭禮を相營み信仰すと云「トアリ

一、大山祇命 八座ヲ合靈セリ 一座ハ大字坂下字上川原二百五十四番地無格社山神社 一座ハ同字百八十五番地無格社山神社 一座ハ大字奥馬野字川原田百二十一番地無格社山神社 一座ハ大字川北字山神七百〇六番地無格社山神社 一座ハ字廣瀬字上山千三百十六番地無格社山神社 一座ハ字林仙四百六十六番地無格社山神社 一座ハ字馬野川四百五十三番地無格社山神社 一座ハ字三谷百四十番地無格社山神社ノ鎮座ナリキ 由緒ハ何レモ「明細帳」ニ「不詳」トアリ

一、市杵島毘賣命 三座ヲ合靈セリ 一座ハ大字奥馬野字向二百九十八番地村社嚴島神社ノ鎮座ナリシガ由緒ハ「明細帳」ニ「往古より字長尾谷に鎮座之處明治五年九月十日字向に遷座し奥馬野村字向十八戸の氏神にして崇敬す」トアリ 一座ハ大字中馬野字美屋三百九十六番地村社八柱神社ノ祭神八柱ノ一柱ニシテ由緒ハ後ニ記ス 一座ハ大字中馬野字稻葉百八十五番地無格社嚴島神社ノ鎮座ナリシガ由緒ハ「明細

一、正哉吾勝々速日天忍穗耳命、天之穗日命、天津日子根命、治津日子根命、熊野久須毘命、多紀理毘賣、多岐都毘賣命、前顯市杵島毘賣命ト共ニ大字中馬野字美屋三百九十六番地村社八柱神社ノ鎮座ナリキ。由緒ハ「明細帳」ニ「舊津藩士藤堂元甫著す所の三國地誌に曰く馬野神社或は云酒下天王總國風土記に曰く山田郡馬野郷馬野神社圭田八十二束三宇田所祭木花咲耳比咩也持統天皇二年戊子十一月始行神禮加圭田頓阿十樂庵記に曰く靈社酒下天王永閑伊賀名所記に曰く山田郡酒下里並社酒解神は直指抄云伊賀國酒解の神は大山祇神云々

冷泉御宇正二位を授けられけるよし至寶抄に見へ侍る按中馬野村に座す中馬野、奧馬野、坂下三邑の總社也俗に八王子と稱す酒下坂下の稱皆酒解の省訓なり今坂下分邑舊馬野小邑なり

古今傳聞に曰く昔當村は番野村にして人口少し時鼻倉某を初め福岡山科之三家より五男三女八柱の神を祭りて八王子と稱す今宮前宮そは宮の下宮原鳥居鼻上山をいよせ場との字存す昔は番野と云ふ頼朝

卿の時生倅と云ふ名有馬其丈五尺二寸伊賀次郎重國頼朝公へ献す其時改馬野或は生好と云ふ木曾義仲追討の時佐々木四郎高綱に此馬を給ふて宇治川を先陣す則ち名馬出世するも此神の神徳なりトアリ

一、武甕槌神、天押雲命、大日靈貴命、經津主神、前顯天兒屋根命ト共ニ元大

字川北字權現九百四十番地村社杉山神社ノ祭神ニテ由緒ハ「明細帳」ニ「古老諺に曰神護景雲二戊申年武甕槌命常陸國鹿嶋より和州春日野に遷らせ給ふ時當社地に於て一ヶ月留り有ると云ふ後寛弘元年に出雲國桃木政孝の三男政守と云ふ人當郷に來り留りて南京三笠山より春日の神社を勸請して杉山大明神と號す後神職となりて當郷に住すと云天正兵亂に焼失し維新の際杉山神社と號す昔ハ社領五百石ありたりとぞトアリ

一、大物主命、二座ヲ合靈セリ、一座ハ本村大字川北字西山五百五十三番地無格社金刀比良神社ノ鎮座ナリシガ由緒ハ「明細帳」ニ「年月日不詳と云共當村杉本某と云者有或日讚岐國金刀比羅へ參拜して分靈を乞受當地へ鎮座して祭來るに天正兵亂に社領悉く焼失す後村民再建し

て一村崇敬神と云々トアリ 一座ハ大字廣瀬字北浦^{キタウラ}一五二一番地無格社建部神社祭神二柱ノ内ナリシガ由緒ハ「明細帳」ニ「古老傳聞ニ曰當社ハ往昔岸田佐渡守盛信近江國栗太郡ノ城主ナリシガ源平大亂後當村ニ居住シ應永二十一甲午年ニ故郷ノ氏神ヲ勸請シ佐渡ノ宮ト號ス天正亂ニ滅亡セルヲ元和三巳年馬野川三谷兩小場ノ者鎮守ト崇奉再興シテ例年三月十五日祭禮ヲ相營ミ信仰ストアリ

一、菅原道真 本村大字廣瀬字西谷千二百六十八番地村社彌榮神社相殿菅原神社ノ鎮座ナリシガ由緒ハ「明細帳」ニ「古老傳聞に曰く舊天滿宮にて當村廣德寺の鎮守なり寛徳二酉年九月廿五日源光僧正勸請す然るに天正兵亂に殿舎焼亡せし故に假殿を設け神璽を奉納置其後慶長十八丑年午頭天王と一棟二扉に再ひ勸請し則ち左殿を午頭天王を祭り右殿天滿宮を奉祭して兩社とも産土神と奉稱祭禮等も四月八日六月十四日九月九日三季の例祭兩社同様相營み御一新後菅原神社と改稱すトアリ

一、大稻與命 本村大字廣瀬字西谷千二百六十九番地無格社春日神社ノ

祭神二柱ノ内一柱ニシテ由緒ハ前項天兒屋根命ノ條ニ錄シタルヲ以テ省略ス

一、品陀和氣尊、大鶴鶴尊 本村大字廣瀬字西谷千二百六十六番地無格社若宮八幡神社ノ鎮座ナリシガ由緒ハ「明細帳」ニ「古老傳聞に曰く當社は往昔濱田兵庫之助勝信山城國久世郡男山より勸請して城内の鎮守と崇敬し奉りしに天正兵亂に勝信滅亡し後元和三巳年田中上出兩小場の者鎮守として當社地へ再ひ勸請して例年三月十五日祭禮を營み信仰すトアリ

一、火之迦具士命 大字廣瀬字三谷百七十番地無格社愛宕神社ノ鎮座ナリシガ由緒ハ「明細帳」ニ「古老傳聞に曰く寛永二巳年以前より當村内三谷小場數度出火して人民大に患ふ故に同年杉本勘兵衛なる者山城國愛宕郡朝日峯愛宕神社に參詣し御影石及び神璽分靈を請ひて歸宅し一祠を設けて勸請し三谷小場十五戸崇敬の處文化元甲子年より一村中に崇敬し正月及び六月廿四日兩度つゝ祭禮を營み信仰すと云トアリ

一、天明玉命 本村大字廣瀬字北浦千五百二十一番地無格社建部神社ノ祭神二柱ノ内ナリシガ由緒ハ火之迦具土命ニ同ジ

一、彌都波能賣命 本村大字廣瀬字北浦千五百二十一番地無格社建部神社境内社水神社ノ鎮座ナリシガ由緒ハ「明細帳」ニ「口碑」に曰く享和二壬戌年六月廿七日より廿八日に至り大雨洪水して村中川端に居住する人家甚た危き處神力により水難を不審に除れ報恩の爲め件の神社を勸請して信仰すと「トアリ

一、猿田彦命 大字廣瀬字北浦千五百二十一番地無格社建部神社境内社菟竈神社ノ鎮座ナリシガ由緒ハ「明細帳」ニ「勸請年月日不詳口碑」に曰く陸奥國白川郡鹽竈神社の神石及神守を受けて鎮座し奉ると云「トアリ

一、考 證

「伊賀國名所記」

「酒解里並社」

酒解明神者直指抄云伊賀國酒解神者大山祇神也云々冷泉御宇正二

位を授らせけるよし至寶抄にみへ侍る」

「伊水温故」

「酒解大明神」

坂下村昔酒解

當社ハ大山祇なり冷泉院御宇に正二位を授給ふと云

酒をつかさどる神也俗語に酒解の誓言をゆるし給ふハ此神をいふ」

「三國地誌」

「馬野神社」

或云酒
下天王

惣國風土記曰山田郡馬野郷馬野神社圭田八十二束三字田所祭木花咲耶比咩也持統天皇二年戊子十一月始行神禮加圭田

永閑伊賀名所記曰「略」

按中馬野村ニ座ス中馬野奥馬野坂下三邑ノ惣社ナリ俗八王子ト稱ス酒下坂下ノ稱皆酒解ノ省訓ナリ今坂下ノ分邑舊馬野ノ小邑也」

「伊賀國誌草稿」

「酒解神社」

山田郡坂下村字中垣内ニ在リ境内百六十九坪木花咲耶姬命ヲ祭ル

祭日二月二日十一月三日創建年月詳ナラス社傳ニ云フ弘文天皇伊勢ニ幸スルノ時此地ニ至ル途不豫ナリ馬野福持全ノ女某酒ヲ奉ズ天皇嘉賞シテ傍ニ侍セシム女間ニ乘シ請テ曰ク妾ノ里酒解神アリ願クハ官位ヲ賜ハンヲ此妾ガ父常ニ望ム所ナリト天皇乃ハチ正一位ヲ授クト福持九郎住城記○頭註云至寶抄曰ク冷泉天皇ノ時正二位ヲ授ク

○按ニ冷泉天皇御宇叙位ノ事正史實錄ニ載セズ弘文天皇ニ關スル事ノ如キハ固ヨリ荒唐ノ談共ニ信スルニ足ラズ

一元廣瀬彌榮神社

伊水溫故

清水明神 天滿宮と牛頭天王二座也廣德寺の鎮守なり

三國地誌

牛頭天王天滿天神ノ祠(中)並廣瀬村

一元坂下春日社

伊水溫故

坂下御厨此所にて獻神供

同村○坂下

藏玉集ニ云天護屋根命神護景雲二年に常陸國を出て尾張香湯村伊賀の中山壬生野の里坂下の御厨を經月の瀬ノ里より山和ノ三笠に垂跡給ふと在

三國地誌

藏王權現祠相殿神明春日○坂下村

一元中馬野嚴島神社

三國地誌

辨財天祠(中略)並中馬野村

一元中馬野八柱神社

三國地誌ニ本社ヲ以テ酒解神社ニ充ツ 但酒解神社ハ大字坂下ニ座スヲ至當トセン○上文参照

一元川北杉山神社

伊水溫故

春日社

河北村

寛弘元年(985)に南都三笠山を勧請其時の神職ハ出雲國桃井某と舊記に有
桃木ハ子孫來て則神職と成て當郷に住すと有

- 一殿武雷神 鹿島 本地釋迦
- 二殿祝主命 香取 本地藥師
- 三殿天兒屋根 牧岡 本地地藏
- 四殿姫太神 伊勢 本地觀音
- 五殿若宮 押雲 本地文珠

天正の兵亂に不燒猶子細在伊亂記にくわしく有本地堂に地藏菩薩有
天兒屋根命本地也舊記に社領五百石

三國地誌

杉山明神祠川北村

伊賀國誌草稿

杉山明神

山田郡川北村字權現ニ在リ境内百九坪武甕槌命經津主命天兒屋根
命大日靈命天押雲命ヲ祀ル祭日九月十二月十一月十二日社傳ニ曰
ク神護景雲二年戊申常陸國鹿島神社ヲ大和國春日野ニ勸請ノ時此
地ニ留マルコト一閱月寛弘元年甲辰出雲人桃木政守本村ニ住シ南

都三笠山ヨリ神靈ヲ勸請シ舊址ニ創建スト天正ノ亂兵燹ニ罹リ後
之ヲ再建ス○頭註云回答
ニ年月不詳 明治四年年村社ニ列ス境内末社一字氏子三十
六戸

一元、彌榮神社相殿菅原神社

三國地誌

午頭天王天滿天神祠中略 並廣 ○彌榮神社
條參照

一元、廣瀨若宮八幡神社

三國地誌

若宮八幡祠中略 並廣 瀨村

一元、廣瀨建部神社

三國地誌

左渡明神祠 並廣 瀨村

○傳説ニ依レハ本社ハ近江國栗太郡某城ノ主岸田佐渡守盛信源平
爭亂ノ後當村ニ移住シ應永二十一年故郷ノ氏神ヲ勸請セルモノニ
シテ○年代ニ疑アリト雖姑
ク傳説ノマハナリト掲ケ 後佐渡宮ト稱セシガ天正ノ兵亂ニ滅亡シタル

ヲ元和三年ニ至リ馬野川三谷小場ノ者之ヲ再興シ鎮守トシテ崇敬
シ毎年三月十五日ヲ以テ例祭ヲ行ヒ來レリト云フ

一、建築物

本殿 拜殿 瑞垣 鳥居
中門 社務所

一、境 内

百六十九坪 官有地

附記

當社ハ布引村大字坂下ノ里ノ中央ニシテ伊勢地街道ニ接シ境内古杉
老檜等繁茂シテ鬱蒼タリ

一、氏 子

二百二十六戸 大正二年十二月末現在

一、祭 日

一元始祭 一月三日

當日村民一同社頭ニ參集シ村長自治制ノ成績經過及將來ノ經倫等
ヲ奉告シ後戊申詔書ノ奉讀式ヲ行ヒ其ノ趣旨ヲ徹底セシム

一、祈年祭 二月十七日

一、勸學祭 四月五日

當日小學兒童ヲ參拜セシメ入學及卒業ノ奉告ヲ爲ス

一、例 祭 十二月三日

一、寶 物

一、棟 札 壹枚

多聞天 聖主天中天迦陵頻加聲 本願各々 持國天
大行事文殊師利菩薩

表 ~~跡~~ 大久藏王權現坂下宮秘文寛永六年霜月八日桂立同元日棟上

小行事普賢菩薩 增長天
哀愍衆生者我等今敬禮大工藤原甚左衛門

裏 本地千手觀音奉迦之穴

福持久太夫殿	藤原氏	屋
馬野權兵衛殿	助衛門	福持次郎衛門
福井十衛門殿	西左衛門	仁左衛門
福持六衛門殿	與衛門	長衛門
福持金太夫殿	彌衛門	又右衛門
		孫衛門
		宗太夫
		仁衛門
		長左衛門
		中

一、基本財産

大正三年三月末現在

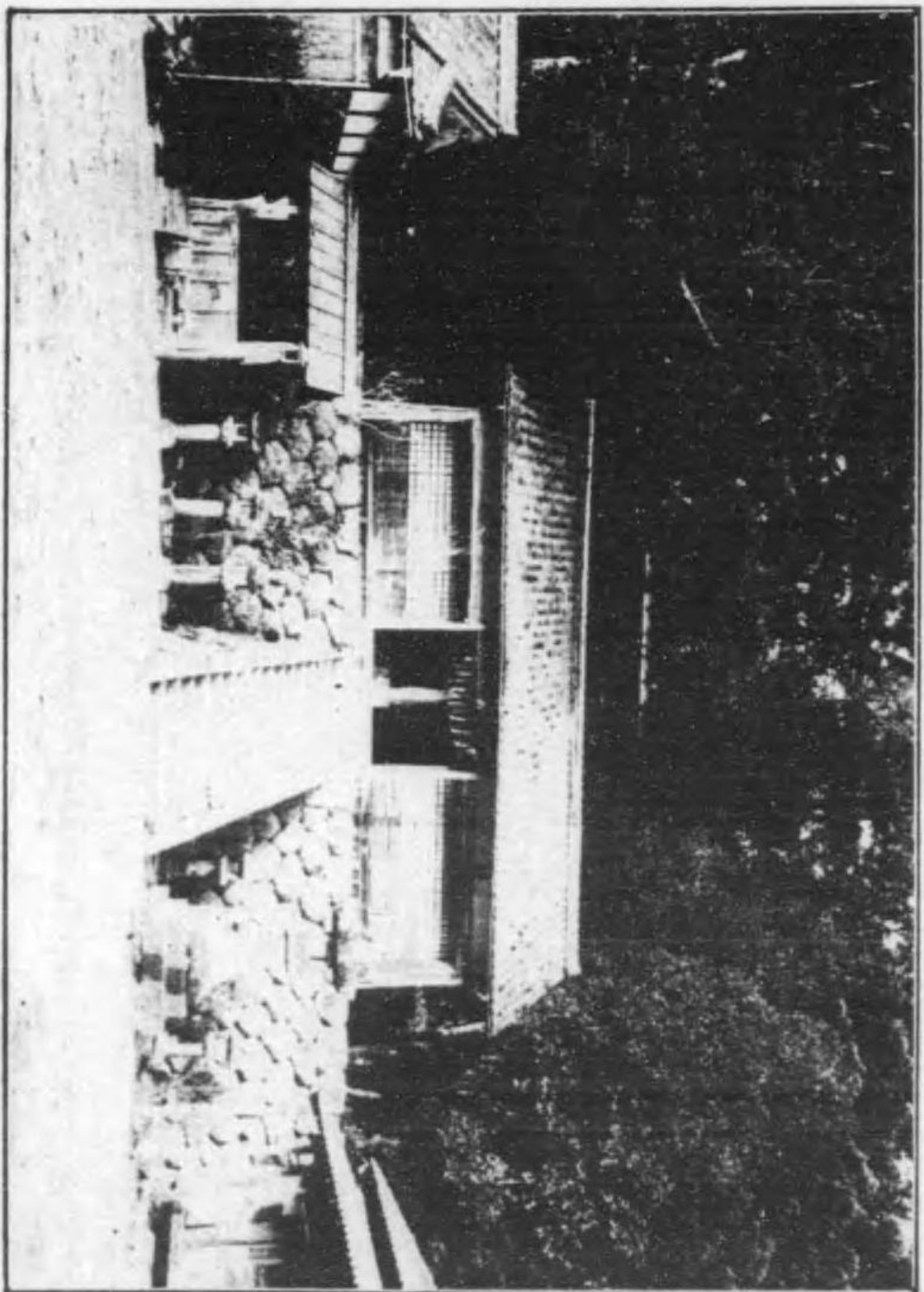
一、金壹百五拾五圓九拾貳錢參厘 郵便貯金

一、金七百五拾圓 預金及貸付金

一、金壹千圓 公債

一、金參千四百五拾圓 農工債券

一、山林一段八畝十六步



阿波村・葦神社神社

村社 延喜式内葦神社

岡山郡阿波村大字上阿波字迎沖二千六百六十五番地鎮座

一、祭神

- 大國主命
- 事代主命
- 少名毘古名命
- 神功皇后
- 猿田毘古神
- 菅原道真
- 地主神
- 高良玉垂命
- 大日靈貴尊
- 天穗日命
- 市杵島姬命
- 田心姫命
- 天手力男命
- 日本武尊
- 健甕須佐之男神
- 大山祇神
- 帶中日子神
- 大雀命
- 奥津日子神
- 湍津姫命
- 天日方奇日方命
- 布都御魂神
- 火産靈命
- 伊邪那岐神
- 伊邪那姬神
- 伊古那姬神
- 品陀和氣命
- 宇迦能御魂神
- 奥津比賣神

一、由緒

當社ハ往古ヨリ現社地ニ鎮座マシマセシガ明治三十八年九月十一日許可ヲ受ケ大字上阿波字燒石無格社山神社ヲ同年四月廿七日合祀シ次テ明治四十年五月四日許可ヲ受ケ境内社瀛津神社、白鳥神社、秋葉神社、金刀比羅神社、相雄神社、津島神社、大字上阿波字少宮無格社、少宮神社、字笹尾無格社、愛宕神社、字平松代無格社、愛宕神社、同境内社、金生神社、太田神社、字大ク首無格社、菅原神社、同字無格社、愛宕神社、同字無格社、金刀比羅神社、同境内社、金生神社、字子延無格社、津島神社、字大ク首無格社、嚴島神社、字迎沖無格社、葦山神社、字三女ク原無格社、萬頭山神社、字迎沖無格社、山神社、字川原口無格社、山神社、字笹尾無格社、山神社、同字無格社、山神社、字少宮無格社、山神社、字左近堂無格社、山神社、字大ク首無格社、山神社、字田ノ谷無格社、山神社、字燒石無格社、山神社、同字無格社、山神社、字燒石無格社、同境内社、杉雄白鬚神社、金生社、大字富永字宮ノ谷村社、菅原神

社ヲ同年四月十六日合祀セリ 而シテ大字上阿波村社五社八幡神社ハ明治三十九年十二月十四日許可ヲ受ケ同大字字横尾無格社、横尾神社、字汁村無格社、嚴島神社ヲ同四十年一月廿六日合祀セリ 又大字猿野村社、貴雄神社ハ明治三十九年四月廿五日同大字字十瀬無格社、金刀比羅神社、字信樂谷無格社、愛宕神社、字鷹面無格社、御松神社、字小木戸無格社、山神社、字大岩無格社、龜神社、字鷹面無格社、山神社ヲ同年七月二十八日合祀セリ 又大字富永村社、菅原神社ハ明治三十九年十二月十四日許可ヲ受ケ同大字字宮ノ谷無格社、愛宕神社、字風呂谷無格社、金刀比羅神社、無格社、山神社、字西山無格社、山神社、字垣内無格社、山神社、字大門無格社、山神社、字岩ノ上無格社、山神社ヲ同年同月二十五日合祀セリ

明治四年七月村社ニ列セラレ同三十九年十二月三重縣告示第三百八十號ヲ以テ神饌帛幣料供進指定社ニ定メラル

一、大國主命、市杵島姬命、湍津姬命、事代主命、田心姬命、天日方奇日方命、大字上阿波字迎沖二千六百六十五番地村社、葦神社ノ鎮座ニシテ由緒ハ

「明細帳」ニ當社の濫觴は人皇七代孝靈天皇甲子の歲勢賀兩國の境黒岩の峰に顯座し給ひ勢州三船の明神と相殿に座ししが其後二百餘年を経て兩國へ降臨し賜ひ鮫ヶ原三女垣内に鎮り給ひ粟皇淡護明神と申し奉る然るに神功皇后三韓御征伐の後諸國の神社へ奉賽禱幣の勅使高良命此郷へ下向し給ひ鎮護國家の宿禰座ししに神明應護の瑞祥に従つて神符を三所に別宮して葦神社粟皇神別府宮と申し奉る則大國主命事代主命を字芦谷に奉りて葦神社と申し天日方命奇日方命を字別府に祀りて別府宮と申し市杵島姫湍津姫田心姫の三女神を三女垣内に祀りて粟皇神と申す高良命の御旅館のありし所を高良城と字に残りて今尙存す其後承平七年酉年地大に震ひ三所共建物凡て損傷せり故に天慶三庚子年今の宮地へ宮柱太敷立て三所の神璽を合祀して葦神社七王子淡護大明神と復舊し祭日は四月上巳日八月中五日十月上亥日十一月上卯日と定め百石百貫の料を定め中にも卯月上巳日には流滴馬の神事とて氏人郷士百姓三方に分れて競馬の射術を行ひ若失敗する時ハ大に其拙を嘲笑して其日の興とせり然るに其後元龜天

正の頃郷士の射御頗拙劣にして三年間失敗を續ければ双方より罵詈
嘲笑を加へたり彼自己の拙を顧みず大に怒り刀を放ちて御池の堤を
切り打擲格闘したりしかば氏人産子皆和衷共同を欠き祭事全く中絶
せり下りて天正九年北畠信雄卿當國御征討の砌殿舎悉く兵燹に罹り
神璽のみ纒に其災を免れ漸く假宮を立て、勸請し奉り其後慶長十八
年十二月二十日社殿を造營して故の如く遷宮し奉る又元和年中藤堂
高虎公の芳書一卷を納めて一座を崇敬し葦神社八王子淡護大明神と
申し奉る然るに神號兩部に近かかりしを以て寶曆年中復舊して葦神
社粟皇神別府宮と唱へ奉りしに明治四年七月村社葦神社と改稱すト
アリ

大國主命ハ合祀ニ依リ同神四座ヲ合靈セリ 一座ハ村社葦神社境内
社全刀比羅神社ノ鎮座ナリシガ由緒ハ「明細帳」ニ寛政八辰年三月神官
稻上常陸保武讚洲金刀比羅神社へ參詣シ分靈ヲ請テ勸請セシニ追々
信仰者増加シ毎年三月十日祭祀ヲ營ムトアリ 一座ハ大字上阿波字
大ヶ首ダイカシ二九九二番地無格社金刀比羅神社ノ鎮座ナリシガ「明細帳」ニ文

政元寅年三月當村ノ住人蛭澤平八ナル者讚州金刀比羅社ノ分靈ヲ鎮守トシテ勸請信仰ノ處不思議ノ靈告アリタルヲ以テ一垣内集談ノ上善助榮治ノ兩人領主ノ許可ヲ受ケ文政十亥年當地ヘ勸請シ子延垣内一同崇敬シ八月九日例祭相營ムトアリ 一座ハ大字猿野字十瀬無格社金刀比羅神社ノ鎮座ナリキ「明細帳」ニ安永年中富永村新大佛寺住僧村位地相ヲ考ヘ村中ヨリ乾位ニ當ル山尾ニ神社ヲ勸請スル時ハ村中繁榮スト云フ然ルニ幸ヒ讚州金刀比羅社ヘ參詣ノ者分靈ヲ受ケ歸村セシモノアルヲ以テ領主ノ許可ヲ受ケ當地ヘ小祠ヲ設ケ勸請ストアリ 一座ハ大字富永字風呂谷八九五番地無格社金刀比羅神社ノ鎮座ナリキ 由緒ハ「明細帳」ニ不詳トアリ

又市杵島姫命ハ同神三座ヲ合靈セリ 一座ハ大字上阿波字横尾一〇四二番地無格社横尾神社ノ鎮座ナリキ由緒ハ「明細帳」ニ「口碑」ニ當村ノ巽位美濃輪谷ニ鎮座アリシヲ中古當所ヘ遷座シ横尾辨才天ト崇敬セシガ御一新改正ノ際横尾神社ト改稱十月七日例祭ヲ營ム撤下ノ神饌ヲ直會スル人ハ齒痛ヲ治スルコト妙ナリトアリ 一座ハ字汁付一二

四一番地無格社嚴島神社ノ鎮座ナリキ「明細帳」ニ「口碑」ニ元祿二巳巳大神宮御遷宮ニ付參宮人多ク晝夜ヲ分タス旅人通行スルヲ以テ當邑ノ住人清平ナル者横尾神社ノ前ニ假店ヲ出シ大ニ利得セシガ是全ク横尾辨財天ノ神應ナリト尊ミ同社ノ神璽ヲ別宮シテ同年十月七日當地ニ勸請ストアリ 一座ハ字大ク首二九三四番地無格社嚴島神社ノ鎮座ナリキ「明細帳」ニ文應年中宗道喜ト云者勸請シテ現今蛭澤氏七家ノ鎮守タリ毎年三月二十四日同姓ノ者例祭相營ミ信仰ストアリ

一、少名彥名命、天手男命、布都御魂神 村社葦神社境内社瀛津靈神社ノ祭神四柱ノ内ノ三柱ナリシガ由緒ハ「明細帳」ニ文政三庚辰年駿河國庵原郡建部莊奥津驛の住人手塚權右衛門なるもの由緒ありて當所に来り稻上讚岐と戮力して勸請し安痘守護の神と信仰ストアリ

一、日本武尊 村社葦神社境内社白鳥神社ノ鎮座ナリキ 由緒ハ「明細帳」ニ「口碑」に曰ふ當社舊神官稻上家の祖先犬上義雄寶龜十未年勸請して一戸の鎮守たりしに文政元年三月稻上河内勢洲鈴鹿郡能褒野白鳥神社の分靈を拜受合祭せしより一村此神を信仰ストアリ

一、火産靈命 七座ヲ合靈セリ 一座ハ村社葦神社境内社秋葉神社ノ鎮座ナリキ 「明細帳」ニ享保十五庚戌年當村ノ内鮫ヶ原垣内出火ノ時鎮火ノ祈念セシニ不思議ノ神變アリ依テ神官稻上但馬守保景及ヒ長三郎遠洲秋葉神社ニ報賽參詣シ神璽ヲ請テ歸村シ即日勸請シ例年十一月十八日祭祀ヲ營ミ一村中災除ノ祈願今ニ怠リナク執行ストアリ

一座ハ村社五社八幡神社境内社愛宕神社ノ鎮座ナリキ 「明細帳」ニ享和三亥年正月二十日ノ夜當村善藏宅出火ノ時村中類焼無キヲ祈願シタルヲ以テ其後村中代參トシテ三月二十四日京都愛宕山へ參詣シ教學院ニ請テ御影石及ヒ神璽ヲ受ケテ歸村シ一祠ヲ設ケテ勸請セルガ參道草木生茂リ雨露雪中ニハ參詣出來難キヲ以テ明治十二年六月官ノ許可ヲ經テ當社境内ニ移轉ストアリ 一座ハ大字上阿波字笹尾五九四番地無格社愛宕神社ノ鎮座ナリシガ「明細帳」ニ永和三丁巳年霜月吉日ノ棟札アリトアリ 一座ハ字平松三二一番地無格社愛宕神社ノ鎮座ナリキ「明細帳」ニ寶曆七丁丑年六月二十三日當村住彦右衛門ト云者京都朝日峯愛宕山へ參詣シ御影石ヲ請テ歸村勸請奉リシガ安永六年

九月二十二日ヨリ一村中崇敬ストアリ 一座ハ字大ヶ首三〇三七番地無格社愛宕神社ノ鎮座ナリキ 「明細帳」ニ元龜年中山城國愛宕郡朝日峯愛宕神社ノ分靈ヲ勸請シ字子延垣内中信仰シ毎年九月二十四日祭祀ヲ營ミ火災平穩ヲ祈禱ストアリ 一座ハ大字猿野字信樂谷一六三三番地無格社愛宕神社ノ鎮座ナリキ 由緒ハ「明細帳」ニ正徳年間京都愛宕山へ參詣シテ教學院ヨリ分靈ヲ受ケ領主ノ許可ヲ受ケテ勸請シ一村崇敬ス毎年六月二十四日例祭ヲ營ミ火災平穩ヲ祈禱ストアリ 一座ハ大字富永字宮ノ谷六三〇番地無格社愛宕神社祭神二柱ノ内ノ一柱ナリキ 由緒ハ「明細帳」ニ不詳トアリ

一、猿田彦神 三座ヲ合靈セリ 一座ハ村社葦神社境内鎮座楯雄神社ノ鎮座ナリキ 由緒ハ「明細帳」ニ寛永十四年六月勸請シ奉りて當村の内子延垣内十八戸の鎮守なりしが文化元年垣内中信仰して終に全垣内の鎮守となれり九月朔日を祭日となすトアリ 一座ハ大字上阿波字平松代三百二十一番地愛宕神社境内社大田神社ノ鎮座ナリキ 由緒ハ「明細帳」ニ文化元年八月勢州宇田猿田彦神社の分靈を勸請す其故は

村中に井溝を新開して水流を挾む故に此神を鎮祭して村位の悪しきを祈禱すトアリ 一座ハ大字猿野字木地六百五十四番地村社貴雄神社境内社杉雄白鬚神社ノ鎮座ナリキ 由緒ハ「明細帳」ニ「古老傳聞ニ曰ハク人皇五代孝昭天皇御宇當村ニ六疋ノ野猿住ム此野猿ノ住ミシ所ヲ双タ股野ト稱シ双タ股ノ槻ノ大木アリ尙中古迄此朽株ヲ存ス盡ハ此樹ニ住ミ夜ハ二町許坤位ノ洞穴ニ住ス此野猿ヲ生捕リテ帝ヘ奉獻ス依テ村號ヲ猿野ト稱ス其後件ノ洞穴ニ宮柱大敷立テ猿田毘古大神ヲ勸請シテ白鬚神社ト奉稱シ猿野村ノ氏神トス然ルニ天正九年ノ兵火ニ罹リテ殿舎悉皆灰燼トナル寛永十四年六月二十八日下阿波村杉尾神社ノ分靈ヲ勸請シ杉尾白鬚神社ト崇敬シ奉リ九月十一日ヲ例祭ト定メ神輿渡幸アリ慶應二寅年三月二十八日領主ノ許可ヲ得テ貴雄神社ノ境内ヘ移轉シ奉リ三月二十八日ノ春祭ヲ加ヘ春秋兩度祭祀ヲ營ムトアリ

一、建速須佐之男神 五座ヲ合靈セリ 一座ハ村社葦神社境内社津島神社ノ鎮座ナリキ 由緒ハ「明細帳」ニ「元文五庚申年六月二十四日疫病退

除祈願の爲神官稻上保景及氏人福島屋源助を平松垣内の惣代として尾州津島神社へ參詣せしめ祀官堀田左馬太夫に宿り同社の分靈を受け勸請し平松垣内の鎮守と崇め奉り六月七日を例祭とすトアリ 一座ハ大字上阿波字子延四千百九十五番地無格社津島神社ノ鎮座ナリキ 由緒ハ「明細帳」ニ「天和元辛酉年春三月疫病流行して子延垣内大に之を患ふ故に小祠を造營して津島天皇を勸請す明治二年天皇號を廢して津島神社と改稱し六月十四日を例祭とすトアリ 一座ハ大字上阿波字見寄谷村社五社八幡神社境内社津島神社ノ鎮座ナリキ 由緒ハ「明細帳」ニ「口碑に曰はく享保十八癸丑年四月より八九月頃疫病流行したれば領主の觸達により六月十四日尾州津島神社の分靈を勸請す然るに明治十二年六月往還道替に付當地へ移轉すトアリ 一座ハ大字猿野字木地六百五十四番地村社貴雄神社ノ鎮座ナリキ 由緒ハ「明細帳」ニ「古老傳聞に曰はく當村は元高尾村猿野村と云ふ兩村にて當村は高尾村の産土神にて古昔高尾神社と稱し奉りし所天正九年の兵亂に殿舎悉炎滅して唯神靈を存す其後慶長年間兩村合併して猿野村と

改稱し牛頭天皇を勸請して産土神と崇敬し奉る然るに明治二年天皇
 號を廢し貴雄神社と通稱し奉り同四年當社を該村村社と奉稱すトア
 リ 一座ハ大字富永字宮谷六百十六番地村社菅原神社境内社津島神
 社ノ鎮座ナリキ 由緒ハ「明細帳」ニ「天保十四年二月尾州津島天皇を請
 ひて勸請す明治二年天皇號を廢し津島神社と改稱す」トアリ

一、伊邪那岐神 大字上阿波字少宮一千九百七番地無格社少宮神社ノ鎮
 座ナリキ 由緒ハ「明細帳」ニ「口碑應仁年中稻上保秀勸請す」トアリ

一、宇迦能御魂神 四座ヲ合靈セリ 一座ハ大字上阿波村社五社八幡神
 社境内社稻荷神社ノ鎮座ナリキ 由緒ハ「明細帳」ニ「舊當村彌右衛門ノ
 鎮守ナリシガ弘化三年當境内ニ移轉ス」トアリ 三座ハ同大字字平松
 代無格社愛宕神社境内社金生神社及ヒ字大ク首無格社金刀比羅神社
 境内社金生神社大字猿野字木地村社貴雄神社境内社金生社ノ鎮座ナ
 リキ 由緒ハ何レモ「明細帳」ニ「古老傳聞ニ天和年中惡性ノ狼村中へ出
 テ晝夜トモ童兒ヲ害スル故ニ此ノ神ヲ村邑ニ勸請シテ災害ヲ祈禱ス
 ルニ忽チ何レヘカ退去シテ庶民安堵ス其後モ狼荒出ル時ハ此神ヲ信

仰スルニ神德アリ故ニ深山ニ入り職業ヲナス者平日モ此ノ神ヲ信仰
 ストアリ

一、菅原道真 二座ヲ合靈セリ 一座ハ大字上阿波字大ク首二千九百五
 十番地無格社菅原神社ノ鎮座ナリキ 由緒ハ「明細帳」ニ「元當村子延垣
 内十二戸のもの元龜天正の頃より富永村産土神天満宮を崇敬して例
 祭等を營みしに故ありて慶長年中別宮して當地へ勸請し元の如く十
 二戸のもの信仰せしに享保年中より子延垣内の鎮守となり御一新後
 菅原神社と改稱す」トアリ 一座ハ大字富永字宮谷六百十六番地村社
 菅原神社ノ鎮座ナリキ 由緒ハ「明細帳」ニ「神功皇后の御宇天穗日命を
 齋き奉りて止美大明神と稱し奉りしに天正年中北畠中將信雄卿當國
 征討の砌兵燹に罹り社殿を始め神靈迄も焼失し爾後十七年間假宮な
 りしが慶長元年當國上野天神宮御本體を分神し道真公の御扇を分ち
 て神寶とし天満宮と尊稱し奉り再産土神と信仰す其後文政五千午年
 十月字風呂谷にありしを當地へ移轉し明治五年天満宮を村社菅原神
 社と改稱す」トアリ

一、大山祇神 十九座ヲ合靈セリ 二座ハ大字上阿波字迎沖二千五百六十三番地鎮座葦山神社祭神二柱ノ内ナリキ 由緒ハ「明細帳」ニ「不詳」トアリ 一座ハ大字猿野字八升田一千四百十九番地無格社山神社ノ鎮座ナリキ 由緒ハ「明細帳」ニ「勸請年月不詳孝昭天皇の御宇此社地に大なる双股の榎あり此木に六足の野猿住みけるを生捕りて天皇に献し村名を猿野と稱し此所を双股野山神と稱す」トアリ 十六座ハ大字上阿波字迎沖二千六百四十四番地無格社山神社字川原口一千四百五十九番地同山神社 字笹尾五百八十五番及同所五百九十七番地同山神社字左近堂二千九百九十七番地同山神社字大ヶ首三千〇三十七番地同山神社字田ノ谷三千四百四十二番地同山神社 字焼石三千八百六十二番地及同所三千八百七十八番地同山神社大字猿野字小木戸六一番地同山神社 字鷹面一六四二番地同山神社 大字富永字風呂ノ谷九四七番地同山神社 字西山四六七番地同山神社 字垣内二七九番同山神社 字大門一二四一番同山神社 字岩ノ上一九九番同山神社ノ鎮座ナリキ 由緒ハ何レモ「明細帳」ニ「勸請年月は不詳なり俗諺に曰はく山神

社は一村或は一垣内に二ヶ所又は三四ヶ所を鎮祭す之は山の神田の神は一神二徳にして冬は山に入りて山の神となりて樵夫を守り春夏秋は里に降りて田畑を守護し給ふ故に冬の祭を山口祭と云ひ春の祭りを田の神祭と云ひて之を鍬山祭と云ふ正月七日或は九日早朝に社地へ男子集參して樹木に太き注連繩を張り氏子の男子老若を問はず一男毎に木にて造りし鍬一挺づゝ(此鍬今誤りて鍬と云ふ)持來り件の注連繩の中央に掛け夫より左右に次第次第掛連ねて數人此鍬の柄を持し一曳き曳きて祝ふと大聲を發す此時中年齡の男子一人注連繩の中央に立ちて百の作物豊穰の祝詞を白す其詞に曰はく山の神様三社權現祝ふ早稲も斗づき中稻も斗づき晚稻は一斗八升づゝ祝ふ大豆小豆提灯に四十四色の作物倭國の糸綿も東の國の金銀も萬頭舟に打乗せて此所へと曳き寄せ惡魔化郎は西の洋へと突き流して祝ふと大聲を發して注連繩を曳き截りて後注連繩鍬諸共皆焼却す之を鍬山祭りの式と百年の昔より今に變らず此所謂祈年祭の畧式にして三社權現とは正しく大年神御年神若年神の三柱にして田の神祭の古式と思はるトアリ

一、伊古那姫命 大字上阿波字迎沖二千五百六十二番地無格社葦山神社祭神二柱ノ内ナリキ 由緒ハ「明細帳」ニ「勸請年月不詳」トアリ

一、地主神 大字上阿波字三女ケ原一千四百七十八番地無格社萬頭山神社ノ鎮座ナリキ 由緒ハ「明細帳」ニ「勸請年月不詳古謠に曰はく當垣内地主の神なるが故に一村中或は一垣内中の中央に此神を祀りて萬頭山神と稱す例祭等も年始に定め則双股の木を以て一尺六七寸に切り男女の形代を造り紙にて衣を着せ之を祭具とし子孫永久五穀豊穰を祈る之所謂大地主神營田の時御年神を祭り給ふ由縁の畧式なり」トアリ

一、帶中日子命 高良玉垂命 大雀命 大字上阿波字見寄谷八百〇四番地村社五社八幡神社ノ鎮座ナリキ 由緒ハ「明細帳」ニ「口碑に曰はく神功皇后三韓御征伐の後高良命此郷に下向し玉ひ鎮護國家の宿禰座すとき旅館に於て公役を勤むるもの十人あり此もの止まりて一邑となり其村を野夫の内現時殿の内の文字を用ふ」ト云ふ此宿禰のとき幣物の殘品を納めし所を神寄谷と云ふ此野夫の内の十軒のもの追々分家して遂に人煙繁殖

するに従ひ此邑の創祖高良命の後者志を留めて此所に居住せしを以て志留村と改號す後元龜天正の頃此神寄谷へ宮柱を建て神功皇后高良命を勸請して八幡宮と稱し當邑の産土神と尊敬し奉る其後享保十二年九月十五日富永村新大佛寺傳燈阿闍利鎮守五社八幡宮を別宮して五社八幡宮と稱號す然るに文化九年八月二十八日參詣の便宜を以て村中に移轉し奉りしに神明の御心に叶はざりしにや氏子年々に疲弊せるを以て舊地に遷し奉らむとするも微力にして其機に至らず安政六年八月江州多羅尾民部の從僕一人通行の節此社地に於て自殺せしを以て速に舊地神寄谷へ歸社造營して同年九月十八日遷座す明治四年七月村社五社八幡神社と改稱すトアリ

一、品陀和氣命 二座ヲ合靈セリ一座ハ前記五社八幡神社五柱ノ内ノ一柱 一座ハ大字富永字廣前一千〇十八番地無格社八幡神社ノ鎮座ナリキ 由緒ハ「明細帳」ニ「舊五社八幡宮なり當村新大佛寺の鎮守にして寺中にあり大佛垣内十二戸のもの該社を氏神と崇敬す然るに明治二年神佛兩部習合改正の際五社の内一座を分けて當地へ勸請し十二戸

の鎮守として氏子は村社菅原神社に附屬す然れ共例祭等は舊式に變らず神輿渡御あり此時眉瘡癩病のもの願望して供奉すれば平癒すとて近郷の庶民信仰すトアリ

一、神功皇后 二座ヲ合靈セリ 一座ハ前記五社八幡神社祭神五柱ノ一柱 一座ハ村社葦神社境内社瀛津靈神社祭神四柱ノ内ノ一柱ナリシガ由緒ハ前記ニ同ジ

一、大日靈貴命 大字猿野字鷹面タカヅラ一千六百九十九番地無格社御松神社ノ鎮座ナリキ 由緒ハ「明細帳」ニ「口碑に曰はく元祿五壬申年正月十四日勢州度會の神主山村太夫由章件の神を勸請し奉る年始吉兆を崇みて御松神社と稱號す例祭等も同日之を營むトアリ

一、奥津日子神、奥津日賣神 大字猿野字大岩オホイソ一千二百二十番地無格社竈神社ノ鎮座ナリキ 由緒ハ「明細帳」ニ「口碑に曰はく當社地の麓に小川あり十五日川原と云ふ此川は毎月上の十五日は川水上顯を流れ下の十五日は川底を流れて砂川となる故に下の十五日間は深く火災を恐れ件の神を勸請し當村奥出垣内の人民信仰すること最も厚しトアリ

一、天穗日命 大字富永字宮谷ミヤノヤ六百三十番地無格社愛宕神社祭神二柱ノ内ナリキ 由緒ハ「明細帳」ニ「不詳トアリ

一、考 證

一、舊葦神社

「延喜式神名帳」上

「山田郡三座」並小

○中略

葦神社

「伊水溫故」○平松村條

別府宮

同村

八王子權現 本地千手觀音 上阿波平松子延三村の氏神

「神名帳考證」○出口延經

「○葦神社 倭名抄木代今山田村植木天皇社此歟在西山村木生社乎 舊事記云大山祇神之子名神吾田鹿葦津姫亦名木花開耶姫 鹿葦津

姫 古事記國忍富神娶葦那陀迦神生子速甕之多氣佐波夜遲奴美神

〔三國地誌〕

葦神社 神名帳作
葦北一本

天平風土記曰葦神社在魚不見池邊俗云龍神

惣國風土記曰山田郡阿波郷葦神社圭田三十八束三字田所祭國常立也
和銅三年庚戌九月始加神禮如勢州加圭田有神戶巫戸等

按平松村ニ座ス俗別府明神凡八王子凡稱ス九月九日上阿波子延俱

ニ祭祀ニ預ル西南龍王嶽アリ山下大池アリ蓋魚不見池是ナルベシ

〔神社叢錄〕上

〔葦神社〕

葦は阿志と訓へし○祭神在所等詳ならず

〔大日本史神祇志〕

〔葦神社〕○今在平松村稱別
府明神又八王子

〔神祇志料〕

葦神社 今上阿波村にあり 津藩
調書

〔伊賀國式社二十五座所附〕

〔別府大明神〕又八王子大明神奉
申御神祇未記す

○中略

葦神社八王子大明神

〔式内諸社傳〕

葦神社 舊事記曰大山祇神の子名は神吾田鹿津姫命 ○鹿津宮作
鹿津 亦名木花

咲耶姫命伊勢國志等美神社大和國志等見神社近江國阿志都彌神社同
神也一説に國産立神とも云ふ布引山麓葦谷祭云々下阿波小山田里祭
有云

〔別府宮記〕

〔別府宮平松村八王子權現千手觀音上阿波平松村三郷の氏神〕○中
天照大
神の御子五男三女の神垂跡是叡山の八王子なり是より諸國に勸請

〔伊賀國誌草稿〕

〔葦神社〕

山田郡上阿波村字迎中ニ在リ境内六百十七坪大國主尊市杵島比賣

命多岐都比賣命事代主命多岐理比賣命天日方命奇日方命ノ七神ヲ祀ル祭日十月九日創建年月詳チラズ社傳ニ云フ孝靈天皇五十四年甲子賀兩國ノ境黒岩峯ニ鎮座シ三船明神ト相殿タリ崇神六十一年甲申原三女垣内ニ移リ粟皇淡護明神ト稱ス神功皇后三韓ヲ征スルノ後諸州神社ニ賽禱ス高良命ヲシテ本社ニ詣セシム神府ヲ三所ニ別チ一ヲ字葦谷ニ建テ葦神社ト號シ大國主命事代主命ヲ祭リ一ヲ字別府ニ建テ別府宮ト稱シ天日方命奇日方命ヲ祭リ一ヲ三女垣内ニ建テ粟皇神ト稱シ市杵島比賣命及ビ多紀理毘賣命多岐都比賣命ノ三女神ヲ祭ル延喜ノ時小社ニ列ス式承平七年丁酉四月地震三社諸殿悉ク破損ス天慶三年庚子更ニ社ヲ今ノ地ニ建テ三社ヲ合祭シ葦神社ト號ス天正九年辛巳社殿悉ク兵燹ニ罹リ纒カニ神璽ヲ存ス乃ハチ假殿ヲ營ミ慶長十八年癸巳十二月廿日更ニ之ヲ再建シ舊規ニ復ス明治四年村社ニ列ス境内攝社一字末社五字氏子百八十二戸アリ

○按ニ上阿波ノ別府明神ヲ以テ式ノ葦神社ニ擬スルコト「惣國風土記」ニ據レリト覺シサレド此ノ書後人ノ偽作ニシテ信スルニ足ラス

「神名帳考證」ニ山田村大字平田ナル植木神社若クハ新居村大字西山ノ木生社はカト云ヘルモノ寧ロ當ラン

備考

一、舊、杉雄白鬚神社

「三國地誌」

「杉尾白鬚祠(中畧) 雙猿野村

一、舊、猿野貴雄神社

「伊水溫故」 ○猿野村條

「牛頭天王 當村氏社」

一、舊、菅原神社

「伊水溫故」 ○富永村條

「天滿天神 五社 二社を村の氏社とす 但し五社權現は大佛の境内に有

「三國地誌」

「天滿祠 並上阿波村

「天神祠 富永村

一、舊猿野山神社

「三國地誌」

「山神祠並猿野村」

一、舊五社八幡神社

「三國地誌」

「五社權現中畧並上阿波村」

一、舊富永八幡神社

「伊水温故○富永村條」

「天滿天神二社を村の氏社とす但し五社權現は大佛の鎮守にして大佛の境内に有」

五社ハ仁德天皇仲哀天皇神功皇后武内大臣五社神事九月廿四日

一、建築物

本殿

寶藏

寶藏素屋

拜殿

中門

瑞垣

社務所

參籠舍

鳥居二基

雜具庫

手水舎

一、境內

八百七十五坪

官有地

附記

本社ハ本村ノ中央龍王嶽ノ山腹ニアリテ數百年ヲ經タル古杉老松ノ綠蔭ニ嚴然トシテ聳屹セル南面ノ鎮座ナリ

一、氏子

三百九戸

大正三年十二月現在

一、祭日

祈年祭 二月

例祭 五月五日

新嘗祭 十一月

一、寶物

- 一、緣起書 壹卷
- 一、文書 壹枚
- 一、社號軸 壹軸
- 一、文書 壹冊
- 一、鏡 壹面
- 一、太刀 壹振
- 一、扇 壹本 管公所持
物ト云フ
- 一、棟札 壹枚 康安元年

一、基本財産

大正四年三月現在

- 金貳千圓 三重縣農工銀行債券
- 金壹百七拾圓 勸業銀行債券

- 金壹圓八拾參錢 郵便貯金
- 山林 五反四畝拾貳步

村社木代神社

一、祭神

猿田毘古神
 火之迦具土神
 中筒之男神
 應神天皇
 長白羽命
 大物主神
 菊理比咩神
 天兒屋根命
 上筒之男神
 倉稻魂神
 大山祇神
 底筒之男神
 健速須佐之男神
 菅原道真

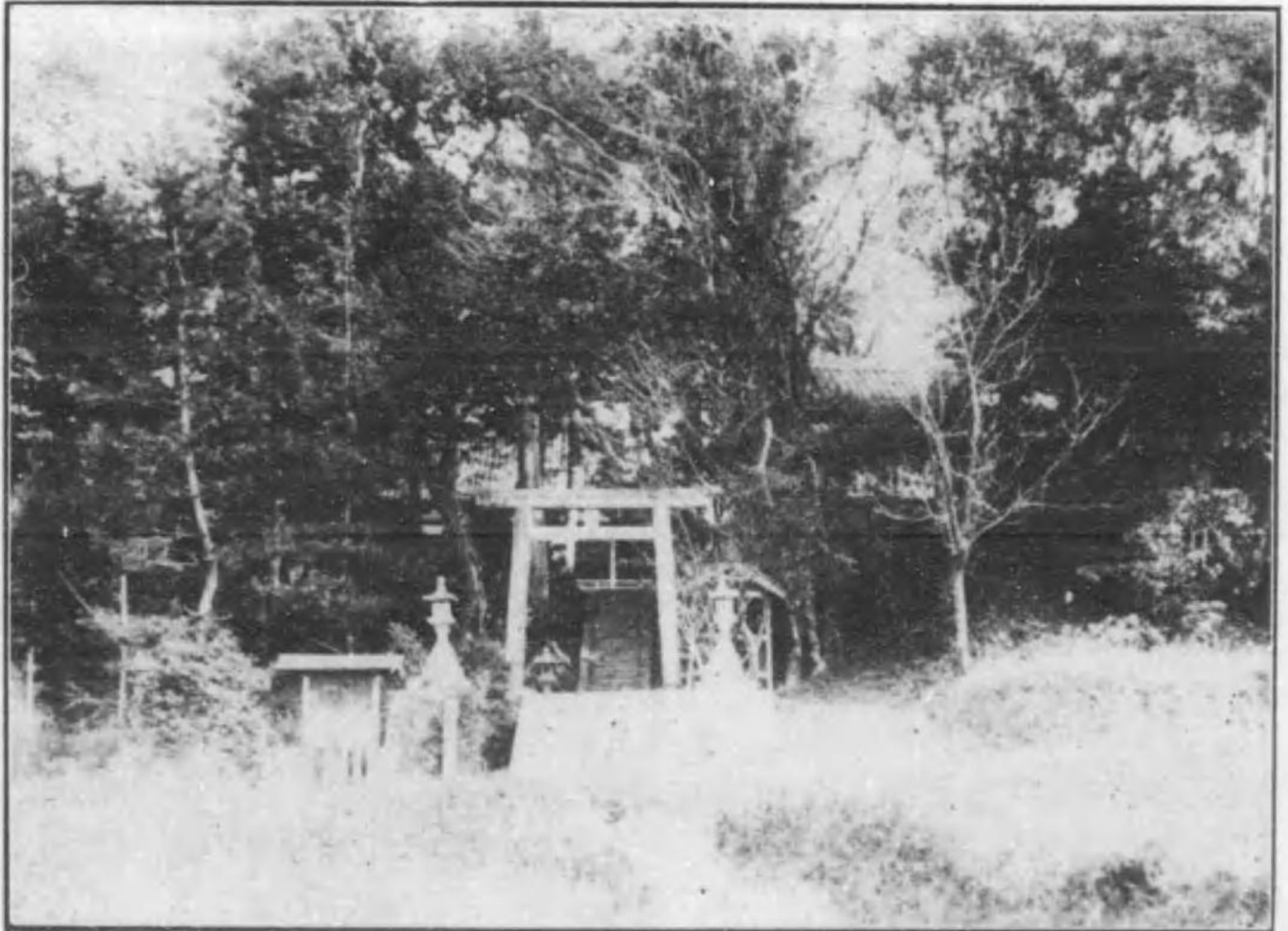
一、由緒

當社ハ元白髮神社ト稱セシガ明治四十年二月二十五日許可ヲ受ケ大
 字蓮池無格社白山神社、同境内社山神社、無格社春日社、同境内社
 子安社、無格社愛宕社、無格社山神社四社ヲ同年七月四日合祀ヲナ
 シ更ニ同四十一年三月二十八日許可ヲ受ケ境内社津島社並ニ大字喰

阿山郡友生村大字蓮池字青ノ代三百五十一番地鎮座



殿拜社神代木社村 村生友



景全社神代木社村 村生友

○大正元年九月三
重縣告示第五十八號ヲ以テ神饌幣帛料供進指定社ニ定メラル

代村社津島神社同境内社津島神社無格社愛宕神社無格社麻柄神社同境内社山神社無格社山神社五社無格社琴比羅神社大字高山村社八幡神社同境内社津島神社無格社愛宕神社無格社秋葉神社無格社山神社三社ヲ同年四月八日合祀ヲナシ木代神社ト改稱セリ

一、猿田毘古神 元村社白髮神社タル當神社ノ祭神ニシテ由緒詳ナラズ

一、菊理比咩神 友生村大字蓮池字煤部千百二十五番地無格社白山神社ノ鎮座ナリキ 由緒ハ「明細帳」ニ「不詳」トアリ

一、大山祇神 十四座ヲ合靈セリ 大字蓮池字煤部一一二五番無格社白山神社境内社山神社 字狹間二七七三番無格社山神社 字横山三六九番同山神社 字大北九二七番同山神社 字稻葉二三二九番同山神社 大字喰代字下透二三六八番無格社麻柄神社境内社山神社 字南浦六一四番無格社山神社 字小谷一〇八七番同山神社 字出屋敷九三番同山神社 字糠野二一七二番同山神社 字和田九〇九番同山神社 大字高山字向林二七〇六番同山神社 字高塚一一八一番同山神社

社 字後山六九八番同山神社ノ鎮座ナリキ 由緒ハ何レモ「明細帳」ニ「不詳」トアリ

- 一、火之迦具土神 四座ヲ合靈セリ 一座ハ大字蓮池字蓮池代二〇一五番無格社愛宕社一座ハ大字喰代字杉谷一七七五番無格社愛宕社一座ハ大字高山字高塚一六八番無格社愛宕社一座ハ字畑枝二三六八番同秋葉神社ノ鎮座ナリキ 由緒ハ何レモ「明細帳」ニ「不詳」トアリ
- 一、天兒屋根命 大字蓮池字横山四百九十一番地無格社春日社ノ鎮座ナリキ 由緒ハ「明細帳」ニ「不詳」トアリ
- 一、底筒之男神、中筒之男神、上筒之男神 前記無格社春日社境内社子守社ノ鎮座ナリキ 由緒ハ「明細帳」ニ「不詳」トアリ
- 一、健速須佐之男命 四座ヲ合靈セリ 一座ハ大字喰代字南浦六百七十番地村社津島神社ノ鎮座ナリキ 由緒ハ「明細帳」ニ「里俗古諺に曰く往昔當村郷士百地丹波と申者の鎮守なるを後に一村の氏神と奉稱すトアリ 一座ハ前記津島神社境内社津島神社一座ハ大字蓮池村社白髮神社境内社津島社一座ハ大字高山村社八幡神社境内社津島神社ノ

一、備考

- 鎮座ナリシガ由緒ハ何レモ「明細帳」ニ「不詳」トアリ
- 一、應神天皇、倉稻魂神、菅原道真 大字高山字里千三百九十六番地村社八幡神社ノ鎮座ナリキ 由緒ハ「明細帳」ニ「不詳」トアリ
- 一、長白羽命 大字喰代字下透二千三百六十八番地無格社麻柄神社ノ鎮座ナリキ 由緒ハ「明細帳」ニ「不詳」トアリ
- 一、大物主神 大字喰代字小谷千九十八番地無格社琴比羅神社ノ鎮座ナリキ 由緒ハ「明細帳」ニ「不詳」トアリ

- 一、舊、白髮神社
- 「伊水温故」○蓮池村條
- 「有神白髭大明神 此里連等祭之」
- 「三國地誌」
- 「白髮明神祠(中畧)池村」
- 一、舊、白山神社

〔二國地誌〕

〔白山祠蓮池村〕

一、舊春日社

〔伊水溫故〕○蓮池村條

〔鹿島宮 磯良を祭る 村の氏社〕

〔三國地誌〕

〔春日祠蓮池村〕

一、舊春日社境内社子守社

〔三國地誌〕

〔子守明神祠蓮池村〕

一、舊喰代津島神社

〔伊水溫故〕○喰代村條

〔有神牛頭天王 或武塔天神といふ村の氏社〕

一、舊八幡神社

〔伊水溫故〕○高山村條

〔神明宮〕

同村

號八幡應神天皇鎮座神前に垂枝櫻有枝葉數十丈盛たり

〔三國地誌〕

〔八幡祠稻荷大神同殿鷹山村〕

一、舊麻柄神社

〔伊水溫故〕

〔朝柄大明神 天照大神を祭同氏社〕

〔三國地誌〕

〔麻柄明神祠〕神明○喰代村

一、建築物

本殿

寶庫殿

透塀

瑞垣

拜殿

鳥居三基

神饌舎

社務所

手水舎

燈籠神明造四基
春日造二基

一、境 内 九百八十坪

附記

當社ハ連池高山喰代三大字ノ中央一帯ノ高地ヲ占メ殿宇ハ西南ニ面シ域内ハ大樹喬木ヲ以テ充タサル風望閑雅幽邃ノ靈地ニシテ往昔木代郷總社ノ名眞ニ空シカラサルナリ

一、氏 子 二百四戸

一、祭 日

- 例 祭 四月八日
- 恒例祭 七月二十日
十月十九日二十日
- 月次祭 毎月八日二十日
- 祈年祭 二月十七日
- 新嘗祭 十一月廿三日

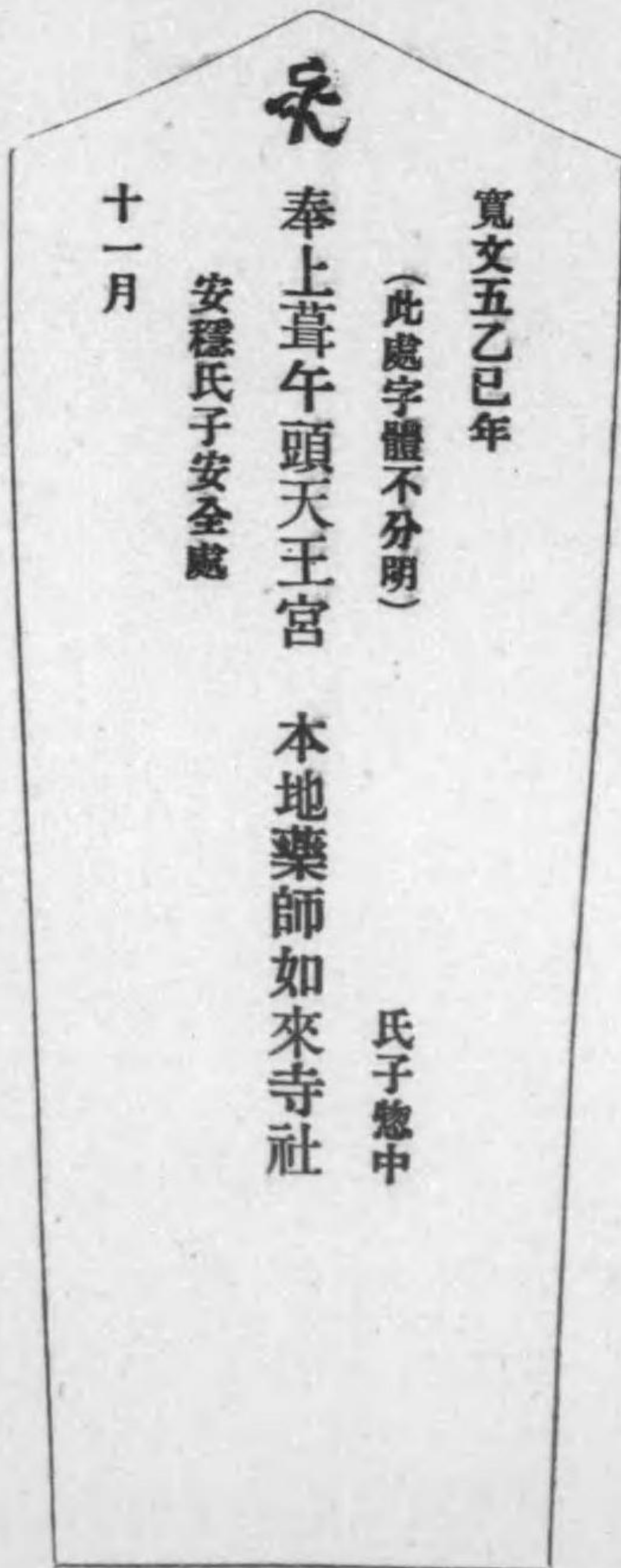
一、寶 物

一棟・札 壹枚

勸學祭 入退學兒童 四月一日
軍人祭 入退營兵 十一月二十八日

長二尺八寸五分

表
長十寸五分



長十寸五分



社神生友社村 村生友

一神 鏡 三面
一劍 三口

一、基本財産

大正三年三月末日現在

- 一金貳千貳百圓 三重縣農工債券
- 一金四百五拾圓 現金積立
- 一畑 二畝二十五步
- 一山林 三反三畝二十步

附記

當社基本財産ハ前記金額ト合セ利倍増殖ノ上壹萬圓ニ達スル迄毎年
金五拾圓ツ、積立ツルコト、シ大正三年度ヨリ實施セリ

村社友生神社

阿山郡友生村大字下友生千四十二番地鎮座

一、祭神

菅原道真
 瀬織津姫命
 田心姫命
 武甕槌命
 齋主命
 天之兒屋根命
 吉備大神
 應神天皇
 健甕須佐之男命
 天津日高日子番能邇々藝命
 木之花佐久夜毘賣命

天津日高日子穗々出見命
 大山咋命
 大物主命
 火産靈命
 大山祇神
 仲哀天皇
 神功皇后
 天水分神
 八衢比古神
 八衢比賣神
 蛭子命
 不詳一座

一、由 緒

當社ハ元菅原神社ト稱セシモ明治四十一年四月九日許可ヲ受ケ境内

社六社 大字下友生無格社金刀比羅神社同山神社八社 大字上友生
 村社信田神社大字中友生村社津島神社ヲ同月二十四日合祀シ友生神社
 ト改稱セリ
 村社信田神社ハ明治四十年五月二十七日境内社津島社大字上友生無
 格社産神社無格社山王社無格社金刀毘良神社同境内社愛宕社無格社
 山神社大字界外村社八幡神社無格社山神社二社無格社三十三番神社
 無格社津島神社二社ヲ同年八月八日合祀セリ
 又村社津島神社ハ元氣比神社ト稱セシヲ明治二十一年十月五日大字中
 友生無格社津島神社ヲ合併シ津島兩神社ト稱シ更ニ同三十七年十月十
 四日境内社二社ヲ合祀シ次テ四十年五月二十七日大字中友生無格社
 龍王神社無格社山神社ヲ同年七月十五日合祀シ津島神社ト單稱セリ
 本社ハ明治四年七月村社ニ列セラレ大正元年九月三重縣告示第五十
 八號ヲ以テ神饌幣帛料供進指定社ニ定メラル
 一、菅原道真 本村大字下友生字東垣内千四十二番地菅原神社鎮座ニシ
 テ由緒ハ「明細帳」ニ「不詳」トアリ

一、瀬織津姫命、田心姫命、武甕槌命、齋主命、天之兒屋根命、吉備大神 大字上
 友生字大里千百十九番地村社信田神社ノ鎮座ナリキ 由緒ハ「明細帳」
 ニ「里諺に曰く當郷は往古豊高の莊上友生村と號し天津兒屋根命齋主
 命武甕槌命田心姫命の四神を祭り豊高の明神と稱す然るに永正十一
 年の頃和泉國信田村の産大泉坊と申す遊行者來り當郷に留り日頃當
 社を敬拜崇尊せしが病ありて遂に空しくなりければ村民等當社より
 南位に十間三尺を去る林中へ葬送し二間四方の塚を築き當氏神境内
 に於て大祓を執行し瀬織津姫命を合祭勸請す尙又此大泉坊と申すは
 吉備大臣末葉の者故此塚を庶民吉備の森と稱し信仰するに感應著し
 く小祠を營繕して吉備明神と稱し尊崇日に増し遂に村中過半産子と
 なる然るに天正の兵火に罹り社殿悉く焼亡し其後殿舎再興の節氏子
 彼是爭論ありて本社へ合祭して信田神社と改稱し一社六座を一村の
 氏神と奉崇古跡吉備の森には例年の始めに七五三繩を張り參拜致す
 事今に變らずトアリ

一、應神天皇 五座ヲ合靈セリ 一座ハ太字界外字北浦四百三十六番地

村社八幡神社 一座ハ大字中友生字森ノ下七百八十七番地村社氣比兩
 神社ノ祭神四柱ノ内一柱 二座ハ同境内社八幡神社二社 一座ハ大
 字下友生字東垣内千四十二番地村社菅原神社境内社八幡神社ノ鎮座
 ナリキ 由緒ハ何レモ「明細帳」ニ「不詳」トアリ

一、健速須佐之男命 七座ヲ合靈セリ 一座ハ大字上友生字大里千百十
 九番地村社信田神社境内社 津島社 二座ハ本村大字界外字檜原千
 百三十九番及千百四十番地無格社津島神社二社 一座ハ大字中友生
 字森ノ下七百八十七番地村社氣比兩神社祭神四柱ノ内一柱 三座ハ大
 字下友生村社菅原神社境内社津島神社三社ノ鎮座ナリキ 由緒ハ「明
 細帳」ニ「何れも不詳」トアリ

一、天津日高日子番能邇々藝命、木之花佐久夜毘賣命、天津日高日子穗々出
 見命 大字上友生字東川原七百五十七番地無格社産神社ノ鎮座ナリ
 シカ由緒ハ「明細帳」ニ「往古より傳はれる遷宮式祝詞に曰く人皇三十代
 欽明天皇の御宇木之花佐久夜毘賣命天津日高日子根能邇々藝命 天
 津日高日子穗々出見命を山城國葛野郡より此郷に勸請し奉る今の上

友生村中友生村下友生村界外村四ヶ村は當時豊高の莊と云へる一村にして氏神と奉崇せしが其後割村して該村に村社を勸請し奉りしより分離して當今上友生村界外村兩村の産神と崇め奉るトアリ

一、大山咋命 大字上友生字西川原六百十六番地無格社山王社ノ鎮座ナリシカ由緒ハ「明細帳」ニ「不詳」トアリ

一、大物主命 二座ヲ合靈セリ 一座ハ大字上友生字西川原六百十番地無格社金刀比良神社 一座ハ大字下友生字東垣内千四十六番地無格社金刀比羅神社ノ鎮座ナリキ 由緒ハ何レモ「明細帳」ニ「不詳」トアリ

一、火産靈命 大字上友生字西川原無格社金刀比良神社境内社愛宕社ノ鎮座ナリシカ由緒ハ「明細帳」ニ「不詳」トアリ

一、大山祇神 九座ヲ合靈セリ 一座ハ大字上友生字兀峯四百三十五番地無格社山神社 一座ハ大字界外字中請千九百九十四番地無格社山神社 一座ハ同上字塚本五百七十四番地無格社山神社 一座ハ大字下友生字東垣内千四十四番地無格社山神社 一座ハ大字大門千五百十七番地無格社山神社 一座ハ同上字信才千五百八十一番地無格社山神

社 一座ハ字西新開千六百六十番地無格社山神社 一座ハ字池ノ谷

三千六十一番地無格社山神社 一座ハ字中切二千二百十四番地無格

社山神社ノ鎮座ナリキ 由緒ハ何レモ「明細帳」ニ「不詳」トアリ

一、仲哀天皇、神功皇后 大字中友生字森ノ下七百八十七番地村社氣比兩神

社ノ祭神四柱ノ内ナリシカ由緒ハ「明細帳」ニ「不詳」トアリ

一、天水分神 大字中友生字峯割千八百二十六番地無格社龍王神社ノ鎮

座ナリキ 由緒ハ「明細帳」ニ「中友生より子の方を距る十町餘の所に高

山あり此山嶺に長五間横三間位の池形ありて其の中央に神体あり年々八月一日を以て祭日と定め一村打集り神前に登り祭式を行ふ往古より早魃のとき里人神前に登り雨を祈れば三日或は五日を過ぎず忽ち甘雨あるを以て此山を龍王山と唱へ一村内は申不及隣郷の町村より雨乞をなすトアリ

一、八衢比古神、八衢比賣神 各三座ヲ合靈セリ 其ノ一ハ大字中友生字

東山六百六十四番地無格社山神社 一ハ大字下友生字松ヶ谷百八番

地無格社山神社 一ハ字小波田三百十一番地無格社山神社ノ鎮座ナ

ヲキ 由緒ハ何レモ「明細帳」ニ不詳トアリ

一、蛭子命 大字下友生村社菅原神社境内社蛭子神社ノ鎮座ナリシカ由緒ハ「明細帳」ニ不詳トアリ

一、不詳一座 大字下友生村社菅原神社境内社石神社ノ鎮座ナリシカ由緒ハ「明細帳」ニ不詳トアリ

一、備考

「伊水温故」

「天満宮 菅相亟 村の氏社 古は村の東平地に有延保三年遷之」

「伊賀國誌草稿」

「菅原神社」

山田郡下友生村字東垣内ニ在リ境内五百五十九坪菅原道真ヲ祀ル祭日四月十五日十月十五日創建年月詳ナラス初メ字〇〇ニ在リ延寶中今ノ地ニ移ス舊址尙存ス○中略境内末社六字氏子百二戸」

一、元、信田神社

「伊水温故」

「信田大明神此神は吉備大臣を鎮る信田は宮地は字村の氏社南の山に鎮座」

「三國地誌」

「信田祠(中畧)」

「伊賀國誌草稿」

「信田神社」

山田郡上友生村字大里ニ在リ境内五百四十三坪瀬織津姫命田心姫命武甕槌命齋主命天兒屋根命及ヒ吉備真備ヲ祀ル祭日十一月七日創建年月詳ナラス社傳ニ云フ往古豊高明神ト稱ス天正九年巳兵燹ニ罹リ社殿悉ク焼亡シ後再ヒ之ヲ建テ信田神社ト改ム明治四年村社ニ列ス境内末社一字氏子百二十戸」

一、元、中友生氣比津島兩神社

「伊水温故」○中友生村條

「牛頭天王宮 或說武塔天神業壽鳥也」

村の氏社」

「三國地誌」

「氣比明神祠中友生村

長風土記曰山田郡鞆尾山有神曰鞆此間七字脫依之所名也

接風土記闕文アリトイヘル本邑ニヲイテ舊社地コノ宮山ニシクモ
ノナシ且鞆尾ノ本社ニ由縁アルヲ以記文ヲコ、ニ附ス

一、建築物

本殿 寶庫 拜殿 參籠舎 透塀
瑞垣 鳥居 社標 手水鉢三個 燈 明六基

一、境內 三千三百十坪 官有地

附記

當社ハ村ノ西端即チ大字下友生ノ東ナル丘上ニ西面ノ鎮座ナリ境內
檜多ク杉其他ノ雜木モ交リ鬱蒼トシテ神域幽寂森嚴ノ氣人ニ迫ル

一、氏子 百三十二戸 大正三年十二月現在

一、祭日

- 一、祈年祭 二月
- 一、新嘗祭 十一月
- 一、例祭 四月十三日
- 一、元始祭 一月三日
- 一、勸學祭 四月一日
- 一、軍人入退營奉告祭

一、寶物

- 一、刀 劔 一口
- 一、鏡 一面
- 一、棟札 一枚 享和三年十二月

天御柱 享和三亥歲 祠官 坂口主計藤原忠久

表 礮馭慮嶋 奉上葺當社天滿宮產地子繁榮國家安全

國御柱 十二月十二日按察 野口伊豫宇藤原忠住

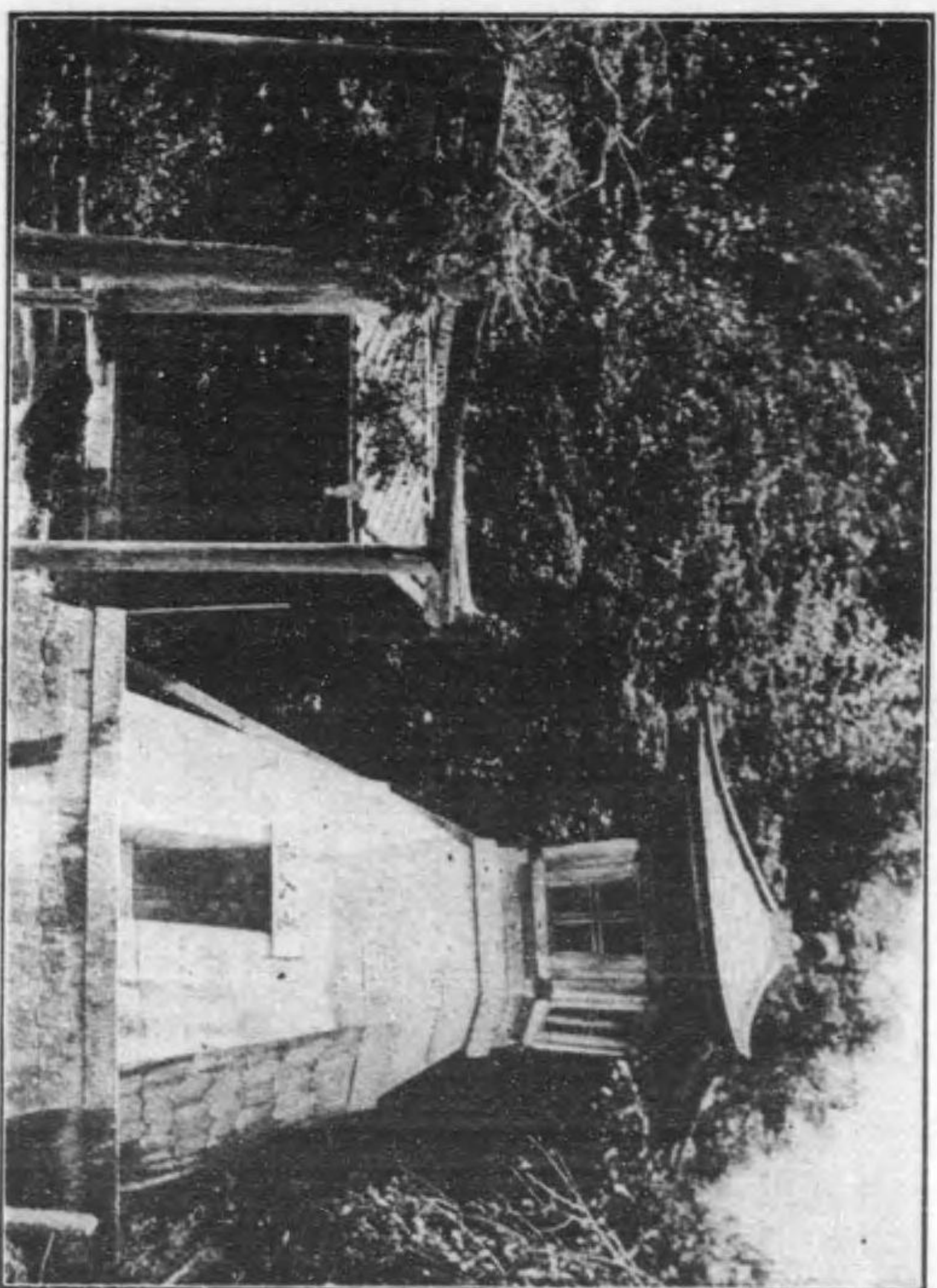
庄官澤吉左衛門久安
年寄 小左衛門
伊州山田郡下友生村
全 新之亟
大工中友生村市兵衛

裏 無上靈寶神道加持

一、基本財産

大正三年三月末現在

- 一金貳千圓 農工債券
- 一金壹百圓 同上
- 一金拾圓貳拾五錢五厘 預金
- 一田 一反六畝十七步
- 一荒蕪地 一畝步



社神雜比乃金社格無 村田長

無格社金刀比羅神社

阿山郡長田村大字長田字垣内二千七十九番地
鎮座

一、祭神

大物主命
宇迦能御魂神
菅原道真
健甕須佐之男命
天兒屋根命
武甕槌命
經津主命

一、由緒

本社ハ往昔ヨリ現社地ニ鎮座マシク舊金刀比羅社ト稱セシカ明治
四十一年三月九日許可ヲ受ケ境内社稻荷社、天満社、津島社、春日社ヲ同

年同月二十六日合祀シ金刀比羅神社ト單稱セシモノナリ

一、大物主命 大字長田ナガタ無格社金刀比羅社ノ鎮座ニシテ由緒ハ「明細帳」ニ「不詳」トアリ

一、宇迦能御魂神 金刀比羅神社境内社稻荷社ノ鎮座ナリシカ由緒ハ「明細帳」ニ「不詳」トアリ

一、菅原道真 同上境内社天満社ノ鎮座ナリシカ由緒ハ「明細帳」ニ「不詳」トアリ

一、健速須佐之男命 同上境内社津島社ノ鎮座ナリシカ由緒ハ「明細帳」ニ「不詳」トアリ

一、天兒屋根命、武甕槌命、經津主命 同上境内社春日社ノ鎮座ナリシカ由緒ハ「明細帳」ニ「不詳」トアリ

一、考 證

「伊水温故」

「比自之社延喜式廿五座同山比自山之内手力雄命也(中略)兵亂に炎滅して跡

なし」

「神名帳考證」○出口延經

「比地神社 伊勢多氣郡火地神社國志云比自社長田庄比自山其地也今

亡 火雷」

「三國地誌」○伊賀郡神前部

「比地神社

按比地ハ比土ニシテ今比土村ニ座ス高土明神是ナリ毎年九月廿七日市場里上出ノ三邑祭祀ニ預ル」

「神名帳考證」○伴信友

「比地神社

(伊考)今在阿拜郡長田比自山又云琰王寺神明」

「神社叢錄」○伊賀郡條

「比地神社比地ハ假字也○祭神猿田彦大神○長田郷百田莊比自山に在す今阿拜郡に屬す伊水温故例祭(飲く)○殘編風土記云和歌山中略有神號「比地明神即猿田彦垂跡也」

「神祇志料」

「比地神社阿拜郡長田莊百田村比自山瑛王寺にあり神明と云今廢たり
伊水温故神名
備考證士代」

○按ニ延喜式ナル比地神社ノ鎮座地ヲ以テ阿山郡長田村ニ擬スル
ハ「伊水温故」ニ創唱スル所ニシテ出口氏「神名帳考證」神社叢錄「神祇志
料」等之ニ雷同ス長田ノ比地山ハ伊賀ノ名山ナレハ比地神社ト此ノ
山トノ關係ヲ想像スルハ必シモ不當ニ非ヌ而モ口碑ニ比地神社天
正災後ノ再興ニ係レルモノ今ノ金刀比羅神社ナリト云フハ容易ニ
信シ難シ○今同社ニ寛政九年以後ノ棟札ヲ藏
ス其ノ寛政以前ノ創建ニ係ルヲ知ル況ヤ「式」ノ比地神社ハ伊賀郡ナリ之
ヲ阿拜郡ナル長田村ニ求ムルハ速斷ニ過ク「三國地誌」ニ伊賀郡比土
村ト爲シ伴信友ノ「神名帳考證」大日本史神祇志「伊賀國誌草稿」等ノ之
ニ從ヘルモノ通論タルニ近シ○名賀郡神戶
神社條參照

元春日社

「伊水温故」○長田
村條

「百々田山不動寺

同郷百田ノ里

本尊不動明王中略 鎮守春日ノ社」

一、建築物

本殿 拜殿 神樂所 手水舎

鳥居二基 石燈籠八基 常夜燈一基 狛犬二基

一、境內 二百十一坪 官有地

附記

當社ハ比自山東北ノ尖端ニ南面ノ鎮座ナリ 域内老松多ク杉檜之ニ
交リテ蔚蒼タリ 又附近ハ天然ノ花卉ニ富メルノミナラス上野町ヲ
距ル事僅ニ十餘町ニ過キサレハ篤信者ノ參拜スル者常ニ絶エヌ

一、崇敬者 三百三十人 大正三年三月現在

一、祭日

- 一、祈年祭 二月
- 一、新嘗祭 十一月
- 一、例祭 十一月十日

一、寶物

- 一、軸 一幅
- 一、棟札 一枚 寛政九年

廣目天
増上天

寛政九丁巳天十月十五日佛果日

大工棟梁百田村
森永久七行兼長谷川氏

多門天

奉建立金毘羅大權現拜殿一字施主十方信施諸願成就攸祈
知君是火情

伊州長田庄百田山不動院福壽寺現住台律沙門理觀敬白
德并丁子屋中右門
紺屋町結樓屋新助

多門天
持國天

一、基本財産

大正三年三月末日現在

- 一、金九百七拾圓 三重縣農工銀行定期預金
- 一、金五拾圓 勸業債券
- 一、金拾貳圓廿錢 郵便貯金



無格社手力神社

阿山郡新田村大字東湯舟字鳥羽千二十五番地鎮座

一、祭神

天手力雄命

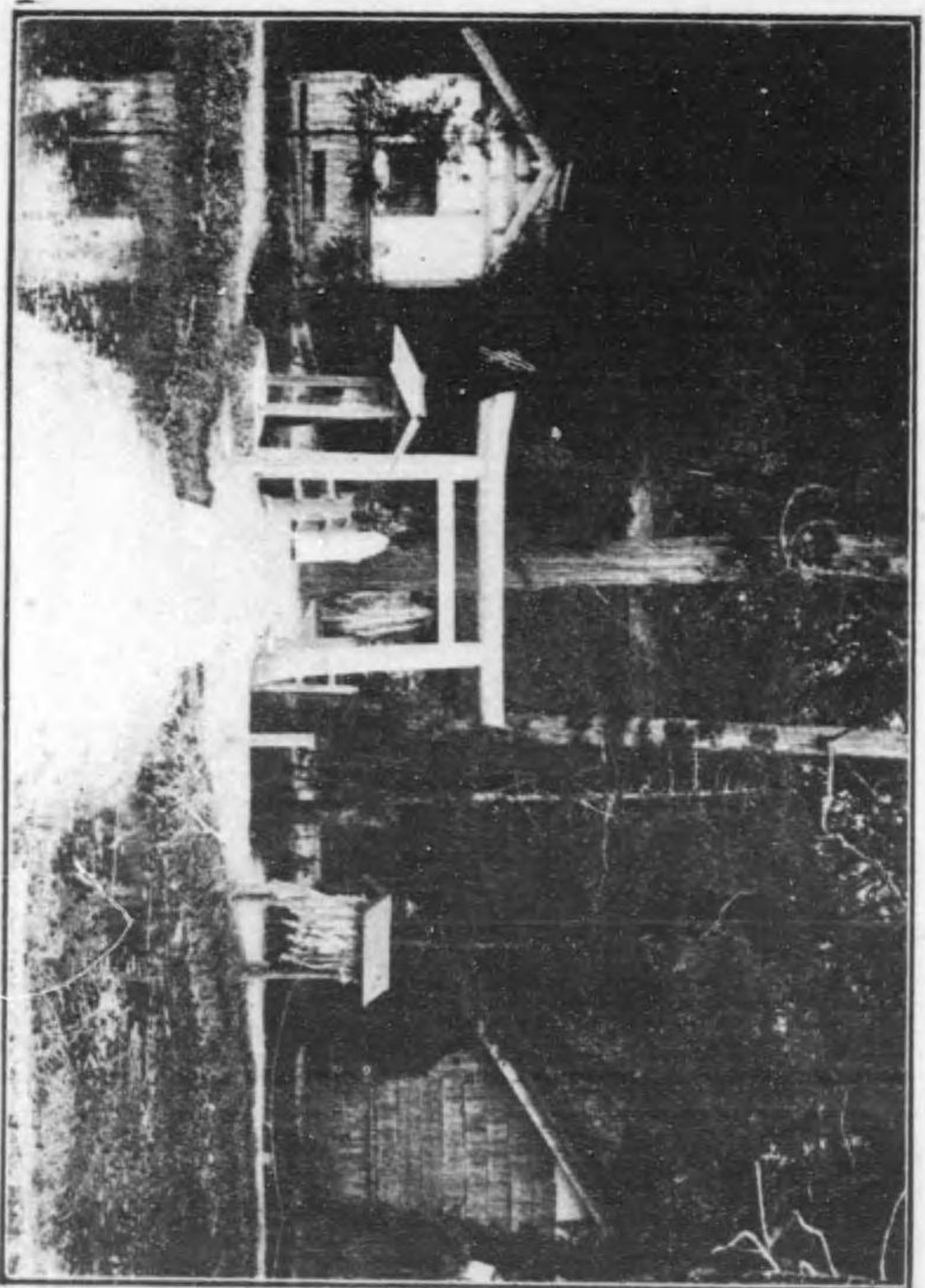
一、由緒

「明細帳」ニ「不詳」トアリ

一、備考

「伊賀國阿拜郡誌草稿」
「手力神社」

本郡東湯舟村ノ南方字鳥羽ニ在リ社域百二十五坪天手力雄命ヲ祀ル祭日ハ八月十七日創建年月詳ナラス氏子一村七十四戸ナリ俚傳ニ云本社ハ往昔本村ノ郷士岡室某之ヲ勸請スト現今信徒甚タ多ク



無格社手力神社 村田 鞆

遠近ノ男女來賽スル者常ニ絶エス

○傳説ニ據レハ創立ハ正曆年度トモ云ヒ又正應年中ナリト云フ
モ天正ノ兵燹ニ舊記燒亡シテ傳ラス今其年代ヲ知ルニ由ナシ然
レトモ天明元丑年十二月三十日再建ノ棟札現ニ存ス則チ其以前
ノ勸請ナルコト明ナリ口碑ニハ正應年間信濃國水内郡戸隠村戸
隠神社ヨリ勸請シ奉リタリト云フ

一、建築物

本殿 神樂殿 參籠舎兼社務所
神橋 鳥居 燈籠

一、境 内 百二十五坪

附記

當社ハ韮田村ノ北部大字東湯舟ノ西南ニ在リテ北面ノ鎮座ナリ南ニ
山ヲ負ヒ東西北ハ田圃ニ接シ境内ハ三方濠ヲ以テ之ヲ廻ラシ蒼鬱タ

ル樹木ハ千古ノ緑ヲ顯ハシ濠ニ架セル神橋ヲ渡レハ西ニ參拜者ノ休憩所東ニ社務所及拜禮所ヲ設ケ社殿ハ嚴然トシテ中央ニアリ民家遠ク離レテ幽邃ノ氣敬仰ノ念ヲシテ一段深カラシム

一、崇敬者 三百九十八人 大正二年十二月現在

一、祭日

祈年祭 二月廿日

新嘗祭 十一月廿四日

例祭 十月十七日

一、寶物

棟札 一枚

表



自黒天守護 遷宮導師別當安養寺法印英證

奉造立手力大明神本宮再興遷宮氏子繁昌五穀成就如意處

多門天守護 天明元辛丑年十二月三十日大工上野二ノ町宮屋勘右衛門

裏



聖主天中天迦陵聲

時ノ社人 作太夫

奉納御本地佛十一面觀世音日月清辰天下泰平村中氏子安全如意所

哀愍衆生者我等 今敬禮

神鏡 一面 津田和泉守 吉次ノ作

狛犬 二頭

燈籠 一箇 宮治林正 直ノ献上

一、基本財産 大正三年三月末現在

- 一、金拾七圓七拾錢
- 一、田 三反六畝十八步
- 一、山林 八畝十二步
- 一、雜地 一畝廿四步

大正十一年三月二十五日印刷
大正十一年三月二十八日發行

(非賣品)

三重縣廳內

編輯兼發行所 三重縣神職會

三重縣津市丸之内二番地

印刷者 加藤三四郎

324
599

終

